WASON
AQ
1104
J74+

Aug. 1893
no. 350

明治廿六秊八月五日發兌

女學雜誌

第三百五十號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

本號目錄

隨感
文字書くの道○法師の孤悲○異質の人事業を異にす○永遠不斷の安慰○朝貌と伏戶の乙女

家政
茶菓子廢止の説(溪流女史)

雜錄
新聞の新聞(しづ子)

兒藍
アンセルモ物語

論說
敎育の最要時機(增田たき子)

小說
春風裡(トオストイ作、不知庵主人譯)

書架
年中總菜の仕方○美術の最上の天職○世界博覽會に於ける婦人○科學と女性○出張看病○婦人建築師

寄書
破鏡怨(佛山棄婦行の譯歌)

女報

前號目錄

社說
女學生の歸郷○女子夏季學校

理學
雨雪(馨子)

雜錄
老牧師(新躰長歌)かすみ

兒藍
アンセルモ物語(しづ子)

家政
献立法心得(溪流女史)

論說
明治女學校高等科生卒業論文
其一 女子高等敎育(宮田八重子)
其二 敎育の最要時機(增田たき子)
○ねむけざまし
○若みどり
○田家のこよみ

通信
高知縣通信○三重縣通信○福井縣通信

女報

女子夏季學校廣告

一 開設主旨

夏季學校の効益多きとは近時毎歳の催しにて人の普く知れる所なり吾等は其ます〳〵盛んになり行んとを希かひ可成くは各地に分設せずして一つに合同し全國同志者の為に唯一の大集會あらんとを願ふの心切なり。然るに今回殊に女子の為に之を別設する所以のものは甚たく方今の女學に憂思する所のあれば也。且や尋常夏季學校に於ては講師を女性に求め其公の演説を聽かんと頗ぶる難く女生の傍聽者に於ては厭かぬ思の多ければとて京濱間基督教主義各女學校同盟會議して本年遂に此特別の設を為すとはなりぬ。左れば此女子夏期學校の主旨とする所は尋常の目的の外に女流先輩又は殊に女學に身を托する方々の講話經驗を承はり尚且つ此時を好機として廣く女子教育者の懇談會を開き一般女學の為に相計り相勵ます所あらんとを欲するにある也。然りと雖どもかの一般夏季學校の催しに妨げなからんとてわざと此會期を八月三十一日よりとせり。願くは四方同一念の姉妹諸君、右發起の精神を酌み其目的を贊して期に先だち惠然數多に來會あらんとを。

二 講話

九月一日より七日迄毎朝靈性上の道話あり。毎夕女子教育及び文學藝術の事に關して講話あり。外に臨時の演説、會議、懇談、及び野遊などあり。

道話を約せられたる教師には、本田庸一、植村正久、井深梶之介、原田助、小方仙之介、ツルー夫人、デョー孃、等の外に押川方義、スペンサー孃、ラーヂ夫人、マヤー夫人、ピアソン夫人等も亦可成く來講あるべし。

講話を約せられたる講師には、(米國女子大學生修學の景況)津田梅子。(ホームの事)ブース氏。(女子教育の方法)櫻井ちか子。(我國女醫の由來及び前途)荻野吟子。(女子教育と武道)星野愼之輔氏。(海外にある我國婦女)安藤太郎氏等の外に高等女子師範學校の中川謙二郎氏、東京盲啞學校の小西信八氏、東京音樂學校の神津專三郎氏等も亦其專門教育に付て講演せらるべく其他尚ほ臨時の演説多くあるべし。

三 雜則

八月三十一日午後開校式を擧げ九月八日閉校す。生徒は女生のみとすれども之に附添の父母若くは女子教育に從事し又從事せる人の來會は此限にあらず。校堂及寄宿舍は横濱山手百七十八番館フェリス女學校内に於てす。校費十錢。臨時聽講費一日五錢。食料一日十錢。夜の具は別に賃借するとを得。校内に取締婦人あり一切の取扱及び監督を為す。

假事務所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社内

唯一日刊 大日本教育新聞

（廣告料十行以下十錢、十一行以上九錢、三十一行以上八錢）

●超然獨歩蕩漾せる世波の上に立ちて。國家教育の偉任を負ひ。達觀敏察自家の經路は自家之れを拓かんものは。我が大日本教育新聞の本領とす。本紙は其發行以來既に一歳有餘日。日尚ほ久しからずと雖とも。新進の機運月に其歩を駸めて。今や萬餘の紙數を發刊するに至れり。我が社奮進盡瘁の効。多少與力なきにあらざるも究竟愛讀諸彦の扶掖に因る大なりとす。是に於て本社は左項に擧くる特殊異常の割引法を設け。愛讀諸彦の眷顧に酬ゆるの傍ら。山陬僻地に至るまで教育思想の普及を期し併せて國家教育の指針たるへき大責任を就さんと欲す。乞ふ四方の君子益々提撕愛讀の榮を賜はんことを●一本紙は一ヶ月前金二十五錢（外に郵税拾二錢五厘）の所公私立小學校。同教員及び學生諸君へは特別を以て郵税を併て。金三十錢に割引發送可仕候●一本紙一ヶ月分以上の前金及び郵税共一時に御送附の御方又は前次領收の前金相切れざる内後次の前金御送附下され候御方へは特に郵税拾錢（端金貳錢五厘は本社負擔す）の割にて發送可仕候●一小爲替不便の地は郵券代用に割増なく申受候得共書留郵便にあらざれば間々紛失の恐れ之れあり又前金領收後にあらざれば本紙發送不仕候

明治廿六年八月

東京神田區錦町三丁目八番地

大日本教育新聞社

櫻井明石君譯

希臘孝子 腓立比（ピリッピ）物語

大形洋綴美製

正價金卅五錢

郵税 金六錢

此書は希臘の孝子が物語を、譯者三年の辛苦を經てものせし世に稀なる孝子か美談にして、既に數十種の新聞雜誌に公評ありたるものにして、對基督教忠孝論物爭の際に當り此書の生れ出でたるなり、乞ふ一本を購ひて讀味あらむことを

四版

皇后陛下御覽

はゝのつとめ

三島通良君著

和本上製（上下二冊揃）定價金五拾錢郵税金六錢

醫科大學産科●婦人科●小兒科○華族女學校●長崎●福岡●島根●秋田其他數縣尋常師範學校教科書及參考書

右は第三版賣切の所今般第四版、印刷成りたれば一層直段を引下候間續々御購讀あらんことを

東京麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百五十號

明治二十六年八月五日發兌

隨感

雨後花香潤、風前鳥語和。

○文字書くの道

書も、音樂も、見ると聞くとを太たく好めど、自から試みんとまでには、思ひ至らず。ひとり字を書くとのみは、能筆の跡、雲に躍り、風に御するの狀を見るごと、胸さわぎて有爲の氣勃々たるを覺ゆ。去年、旅して長崎に到りしとき、崇福寺内の即非が雄健清秀の文字を見、感動一と方ならず。われ之より字を修めんと思ひ立しを、今に尙ほ果さず。近ごろ、某の許にて、敬宇中村先生の書を見しに、十數年前の作にて圓熟未だ足らず、雄烈の氣、骨を露わし、君子が義に怒りたらんときの風姿ありて、趣極めて高し。此に於てか、當日の感、生き反りて、慨念切りなり。自から作りたる文字を見るに、量狹まく氣弱く、毫も賞すべき所ろあらず。むかし宜長大人が、「いと拙くて常に筆とる度ごとに最と口惜ういふがひなく覺ゆるを」と、歎きたるに、深く同情を表す。

○法師の孤悲

「都の苞」といふものゝはしがきに、云く、

心を一枝の花にこめ、思ひを八雲の風にかけて、蓬の跡定まる所ろなく、浮草の露さそふ水にまかせてなんまどひありきける。三吉野の花の春は山のあなたを隱れ家と賴み、武藏野の月の秋は草のゆかりを宿りにてあかし暮し侍れば、六十余州の抖擻殘る所なく、三十一字の風情尋ねぬ方もなかりけり。古へかしこかりし人も或ひは竹を愛することを世と共の癖とし、あるは詩を好むとを身に添ふ病となんしける。この人もかくの如くなるべし。墨染の袖のうちには、長しなへに小さき硯を放たず、むつかしき杖のほとりには、又短かき筆をとりそへ侍りける。剡溪の曉の雪をのぞまざれども、すきの友をたづねて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は、そこはかとなくあくがれ、廬山の夜の雨を聞かざれども沈吟の腸を砕きて志を述べずといふ事なし。觀應のころにや大江山いくの道を分ち過ぎ侍りけるより、陸奥鹽竈のなみに浮ぶまで名ある野山の末には思ひの露を殘し置き、情おほき草木の蔭には言の葉をかきあつめてあねはの松にはあらねども都のつとゝなづけ侍りぬ。

實に、法師ほど情冷たげにて其下に温かきものかくるゝはあらず、遁世の人ほど世を遁れて世を熱想せし覺えの殘るはあらずと思ふ。これ、世を振りすて、法の道に身を歸するの所以ん、もと止むとを得ざる熱情熱愛の末に出でたればならんか。古人云く、そも／＼歌は世の中のあはれといふ事のかぎりを書きつくすものにあれば、姿をくち木になずらへ心を死灰にたぐへし法師の口よりよみ出ずべきことわりはかつて無き事なり、と。知言と謂つべし。

○異質の人、事業を異にす

甲東と南洲との氣質異同を考がえたらんものは、初め改革の時に於て、其相合はざる可らざるの所以ん、中ごろ其の相離れざる可らざるの所以ん、末路其相殺ろさゞる可らざるの所以んを覺るに難きにあらず。彼等ともに愛國の士なり、離合周旋、一つに經世の念ひより發す、何んぞ區々として利已偏狹の情によりて之を成さんや。たゞ其氣質の相違ふによりて見解を異にし、見解を異にして相ひ反くとき、雄斷敢為の英氣、進路の妨害を打倒さんとするによりて、竹馬莫逆の友をすら死地に置て悲しきを忍ぶとある也。左れど、南洲が其友を熱愛すると、遙かに甲東にまさる。甲東は、邦家の為に、友を棄るとを甘んずれども、南洲は、友の為に邦家の事を后にするとなきにあらず。否な必らずしも后にするとにはあらず、熱情の激する所ろ、目前、其友の外を見ず、これ最上最大の義なりとして、即はち之に一身を與ふなり。彼が、月照と相約して水に投ずるの心は、后年、一身を私學校生徒に與へたると情相同じ。彼が熱情の内には、「我死すれば邦家を奈何んせん、邦家の為めに此友情を制せざる可らず」と冷々思慮するの餘地を存せず、直ちに其身を投げ與ふるの外なきなり。此の所ろ、甲東と氣質を異にするの要樞たり。甲東、偉なるか、南洲大なるか、南洲高きか、甲東至れるか。之が優劣を定めんとするは、春と秋と何かよきと評するに似たり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四時皆佳なり、何れを貶し、孰れを褒するとをか爲さん。但だ、甲東一流の氣質は「僞」を以て毀らるゝとあり、南洲一流の氣質は「愚」を以て嘲けらるゝとあらん。一は、複雜にして、理に考がへ、他は單純にして情に熱す、これによりて其發現するの趣をかゆる、たとへば、火は燃えて熱く、氷は結んでつめたきが如し。左れど、其一を取つて、僞なり、愚なりと評するは、天道人情を辨まへざるの僻言なり。人物評を爲すもの、深く此理を識知せずんばある可らず。カブールとガリバルヂ、甲東と南洲、これ批評家がための好題目たるべし。

○永遠不斷の安慰

さびしきは、舊都の月、かなしきは、愛人の末路なり。人の忘るゝと何んぞそれ如此くはやきや。万事無常、流轉きはめて迅速なり。もし「記憶」を世の中に求め、「知己」を世人の內に限らば、哀樂、刻々にかはり、喜憂時針と共に動かんとす。況んや、これ、百年を一夕の癡戀にこめ、無窮契合を肉皮の上につながんとするをや、遂に怨思絕望に終らざるもの、幾人ぞ。

古き都を來て見れば淺茅が原とぞ成にける、
　月の光は隈なくて秋風のみぞ身にはしむ。

この感慨を歌はざるもの、何人ぞ。故に、最后の安慰を、世と人との上に置んものは、皆な失望すべし。この失望や、恩惠なり、傳道なり、之によりて、他の永遠の慰さめを求む。凡そ、神の外に最后の情を寄するものは、不貞節なり。故に神は言ふ、われは嫉忌の神なりと。神、しかく吾等を愛し玉ふ、われら亦之を慕ひ奉まつらずんばある可らず。神は、万物の根元なり、故に終局の歸趣なり、此に根ざゝざるものは、すべて浮草にひとし。水の面の月を實と思ひ、鏡の裏の影をげにと深く思ひ入り、明くれ、たゞ、幻想妄心にわづらはさるゝは悲しからずや。

○朝顏と伏戶の乙女

人の未だ起き出でざるに、早く化粧して、うつくしく打ほゝゑむ。彼のいぎたなく伏戶に暴さはぎて見ぐるしき姿をはぢぬ乙女にまさるは、朝顏の花なり。たれか、其生命の短かきとを哀れなりとす。人も亦一時の壽命にあらずや。古人の歌に、

あさかほを何はかなしと思ひけん、
　人をも花はさこそ見るらめ。

たゞ愼しむべきは、生命ある間の覺悟にこそ。

家政

出則行二其政一、　居則思二其道一。

「茶菓子」廢止の說

淡流女史

世の中の習慣ほど恐い者はありませぬ、習慣の流れ流れて行きました末には、其物自身の主意や目的は、何處かへ隱れてしまいまして、飛んでもない弊害杯が出て參る事があります。

「茶菓子」或は「お茶うけ」と我國で唱へてをりますものは、何時の時代から始り、何時の時代に盛になりましたものかは存じませぬが、とにかく今では世間の一大習慣で、お客の顔をみれば、必ずお茶を出しまたお茶菓子をださねばならぬやうに成つて居ります、なるほど、外を步行いてまゐる者ですから、お茶をだしますだけは至極よろしう御座いますが、お茶菓子の方はチト何如でありませうか。明治の主婦は少し考へねば此習慣を用ふる事はできますまい。まづ試みに其弊害を次にあげてみませう。

(一)　茶菓子は衞生上害あり。

消化器の機能を少しでも御存知のお方は、斷間なくそれを使へば、必ず害のあるといふ事は既に御承知のはずですが、食事の間に物を食べますと、胃其外のものが少しも休む間なしに働かねばなりませぬから、弱る事もはげしい譯です、私どもでも、夏休もなし、日曜もなし、おまけに朝から晩まで使はれて御覧なさい、夫れこそ大變、五十歳の壽命の人は遲くも三十歳位には死にませう、况して三層やそこらの薄い膜から出來て居る胃囊などが、さう働に堪へられる道理はありませぬ。そのうえ、お茶菓子とするものは、消化のよい淡泊ものは少くて、多くは甘いものか、堅いものか、もしくは菓物類ですから、大概は通常の御飯よりもよけいに消化器を害ふものです。ことに子供などには一度此習慣がつきますと、實に弊害がおこるものです。又お客にしましても、胃が弱いから甘い

ものはたべまいと覺悟してをりましても、切角主人が自分の為に、取りよせてくれ、しかも手にまで据ゑてくれたものを無下に食べぬのも氣の毒だし、第一、無作法でもあるとおもひ、且少々は意地きたなの心まで手つだい、口にいれて食べますが、サア歸宅ると大さわぎ、胃散がいるやら、炭酸ソーダが欲しいやらした上句に、今夜は御飯を止めやうとか胸が痛いとかいはねばなりませぬし、又主人の方でも人に勸めやうと思へば、いやでも義理にも、お相伴といふてたべねばならず、さうすると亦お客様と同じさわぎが起ります、結局下女を走しらせお金をつかうて買はせたお菓子の結果として、「あの家に客に行たからとか」「あの客が來たから」とか互に恨まねばならぬやうな事になります。

（二）　茶菓子は時間を不經濟にす

用事ありて人を訪ひ、其用向をすまして、急いで歸らうとしますと「只今お茶がはいります」とか「お菓子を取りに遣しましたから」とかまたは、何を申しつけましたとかいはれてみれば、切角の好意をふりもぎるのも禮でないと、惜しい時間を空しくお菓子の為に費し、其上お氣の毒様、ありがたうなど〻謝辭を述べねばならず、たまには茶菓子の準備の遲いため、奥さんや下婢などが家長から叱言をいはる〻といふやうな不愉快なることまで聞かせらる〻事もあります。

（三）　茶菓子は用事の妨を為す

切角人を尋ねて、奥様なり孃様なりと、ゆるりと話をする氣で參りましても、其目的の人が、ヤレお茶、ヤレお菓子と立さわぎ、その為に切角の目的が十分果されぬためしがあります、これらは實に弊害中の弊害で、無論、あるじ方なる主婦の行届かぬ處からも起りませうが、多分は習慣がかやうにするのでせう。

（四）　茶菓子は子供の教養をあやまらしむ

此項目に就てはよほど愼で考へねばなりませぬ、もしも客が子供を連れて來た時に、おあいそうの為とて、無暗にお菓子を出しますと、先きは子供の事ですからいつもの習慣も、親のいひつけもわすれて食べたがります、もしも夫れが食べさせてならぬ物ででもありますと其母親は大困りします、主人は勸める子供は食べたがると申すやうな事で、遂に行儀のよい習慣も打破られて、其後取かへしがつかずと困る事は度々

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

みます。またもし、主人の方に子供がありましても甚よろしくない「お客樣のだよ」とどれほどいひきかせても、無邪氣な子供には分からないし、時としてはお客樣が、わざ〳〵子供に取てくれたりして、遂に衞生を害するばかりでなく、行儀のわるい習慣までつける事があります。あゝもし茶菓子から子供に斯樣な習慣がつくとすれば、第一子供の預け主なる造物主にすまぬはいふまでもなく、第二に子供が後來はいるべき社會にも氣の毒、第三には其子の爲にこんな些細な事でも基となり、どんな不幸になるかも知れず、總て親の義務がたちませぬから、これに對しては私は最も不贊成です。

以上に擧げました四項で大概其弊害はのべましたが、これを打ち消す利益はトント見當りませぬ。若しいよいよ弊害ばかりで利益がないとすれば、いかに社會の習慣だからと申しても、廢す方が上策です、もし社交上廢し得ぬなら、同盟茶菓子廢止會でも設立したらいかゞでせう。

雜錄

言出乎身加乎民、行發乎邇見乎遠。

新聞の新聞

しづ子

内地雜居でもなく、お家騷動の再發でも御座いません。甲の如きは社會問題としては實に店舊しの見切者といわふか、香も色も抜けた川流れの花びらといわふか、兎に角炎熱燒くが如き此夏の日人の心に涼しさを入るゝほどの新聞では有ません。乙のお家騷動と申ても實に慾と慾との戰爭、殺したとか、殺さぬとかの果しもつかぬ言葉合戰、獸類ならぬ人間が互に肉を食み、血を吸ひ兼ねぬ怨恨の眼を交へて、かけ引する寫生で決して私どもの靈性上の理想に滿足を齎らすものでは有ません。私がけふお話して心の悦びを共に頒ち度とおもふ近頃すが〳〵敷新聞は、一週間ほど前、私どもの廬を音づれた某友人の話しに基いて居り升。

今より五六年前のとでした、私がある學校に寄宿いたし升た頃、友なり敎へ子なりで、ちゑ子といふ愛らしい十二計りの少女が居り升た。率直に飾けなく、聊か人の甘心を求やうと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せぬ質で、むだ口はきかず、むだな行ひはせず、百二百の同窓が思ふがまゝに戯れ、思ふがまゝに雜談する中に決して雷同することなく、獨り立ち、獨り歩んで、確かと覺悟するところあることは誰が見ても疑がひませんかつた。敎師朋友は其のむくつけき外面を意に介せず、木の間漏る日のひかり、葉がくれの岩清水ほど清く、天眞な其笑みを見ん爲には隨分心にかけて此少女に深切を盡し升た。ちゑ子のホヽ笑は極く稀れに見へ升たが、一種特別率直なホヽ笑で、今思ひ出すも愉快です。見る人の心を悦ばせた此雛女郎花に一朝時ならぬ霜がおそひ來り升て、敎師の愛護も、朋友の涙も、ちゑ子を引とむると出來ず、あたら學校の名花を凋ましてしまひ升た。この時流した涙の眞心から湧き出たも、一同が骨肉と相別るゝ思ひで有たと、心よき義捐もて葬送の費用を補つたも、皆此少女を愛し、敬したなみ〳〵ならぬ情を表し升た。

ある夏の夕、同校講堂に定期の祈禱會を催し升たが、偶然入來つた壯年は頻りに咽をかわかし、水呑場に立寄り升と、折ふし髮を垂れた娘が同じくこゝに寄つて、水を呑んで居り升た。茶椀は一ツで、少女は先にそこにあつたのでしたから、壯年は二三歩退いて靜に少女の呑み終るを待ち合せ升た。少女は吸んだ一杯を呑み干し、丁寧に茶椀を淸め、更にねぢを轉じて、茶椀を滿し、壯年に進め升て「茶椀のふちが缺けて居り升から、」と一言注意を殘して會釋しつゝ去り升た。固より非凡な德行といふでは有ませんが、少女の風采と言行が此理想的な壯年を非常に感動させ、必竟基督敎主義の敎育あればこそ、高潔なる師の薰陶あればこそと、同校は此一事より思がけなき名譽を擔ふ樣になり升た。四五日經て事の紀念にとて缺けぬ爲でせう、錫の茶椀を水呑場へ寄附され升た處がちゑ子の同窓まで何となく鼻高く、校中一人の敵をもたぬちゑ子はます〳〵知己の增す樣になり升た。さうしてちゑ子に壯年の感服した話をするものあれば、ちゑ子は初めての時はホヽと例の稀なホヽ笑を漏し「マア何にもしやしませんはあたりまへのとしたつて、そんなに」と關わず下讀にかゝり升たが、女性の口八釜しさ、尙かれこれともてはやすものゝあつた時、ちゑ子は一向取りあわず、横むいて五月蠅がり、にこともしなかつたさうです。併し壯年は此時より熱心なる女子敎育の友となり折しも校の建築費足らず、義捐金を募た時などは壯年は身分不相應な出金を致し升た。それこれで學校はいつも〇〇氏を厚き友人の內に數へて置き升た。

其後私は校を去り、四五の年月を過し、〇〇氏の行衞さへ暫らく承りませんかつた。一週前音づれられた其折の朋友、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

今は法學士の中に其名を知られた某の談話を聞き升に、其時の壯年〇〇氏は目下伊滿里銀行に勤務され、薄給なる上今に獨身なる身を以て勤務の餘暇に最寄の貧兒を集め、人知れず教育の勞をとらるゝさうです。折々某氏と文通するの外共に協力する人なく、其志を贊成し、或は爲に筆を下して廣く公衆の補助を仰ぐ知己なく、殊に風俗淫猥なる伊滿里市中によく此壯年を勵し、其精神を維持して、孤獨此困難なる事業に從事させるは何等の故有つてと誰も訝かることです。朝な夕な〇〇氏の出勤を送り歸宅を待つ小兒は四五十の多きに至り升たとか、氏はこれ等の貧兒に自給の道を敎へん爲居宅の廻りなる田畑を耕さしめ、野菜をつくらせ、市にひさがせる積りだとか、聞毎か一々感服する計畫があるさうです。彼といひ、これといひ、何等の美談でせう、〇〇氏よ心を强ふし玉へ、あなたの事業を助くる者は日ならず多く出でませう、よしあなたの志望、あなたの主義を人は知らず、たとひあなたの事業は須臾地に落ちて、結果見へず、廢れることがあり升ても、あなたの御事業は必ず永遠につゞき、其結果は私どものとも〴〵愛する皇國の永久の嬉悦になることで厶ませう。

田家のこよみ

書勸子 編

〇立秋八月七日〇涼風至〇寒蟬鳴〇蒙霧升降

〇八月十日より廿日迄の農事

〇播種　菜豆、香蒲、甘藍、菠菜、スヒフッチ、葱頭、秋蕎麥等此節より播種してよし。

〇園藝法

(二)桃樹の如き大なる髓質若くば海綿の材質を有するものは嫁接を行ふと難し、此の如き果木は接穗の下部に二年生の枝部小許を添えて剪り取るを以て成蹟確實さす、

(三)種穗もし多量に得らるゝ時は、其後先を切り去りて中央のみを用ゐるを可さす、之れ樹木の中央部に生じたる枝を用ゆるさ稍同轍の理に基くなり、接穗は長きを用ゆるを不利さす、盖し長きに過ぎれば之を養ふに津液の多量を要すればなり、其長さ凡三寸乃至五寸許を以て度さす、而して芽は一本の接穗に二箇より五箇に至るを定規さす、

第拾七　接穗切採

接穗切採に付大に注意すべきは、接穗を切り採り直に嫁接すべからず、數日或は數十日前に切り採りて其生力を失はしめざる樣貯へ置き、砧木の生氣將に勃々たらんさするに臨み嫁接すべし、斯の如くすれば接穗は旣に多少の水分を失ひたれば、之を接穗するに嫁接は好で砧木より津液を吸收し盛に生長するものなり、砧木若し接穗に比して生氣盛ならざれば接穗に多量の津液を輸送すると能はず、遂に之を凋枯せしむるに至るべし、故に豫め此損失を防がんさ欲せば嫁接せんさする期より、一ヶ月乃至二ヶ月前に於て母樹より切り離して貯蓄すべし、總て接穗は晩冬より早春に至り切り採るを常さす、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

兒藍

アンセルモ物語（下）

しづ子

兄は政事上のかけ引から、非常に政府の嫌悪する處となり、踪を匿くしたと云ふ彼の夜とう／＼敵の手に陷いり、力を極めて防ぎ戰ひ升たが、其効なく、遂に敗れて獄につながるゝ身となり升た。いともいぶせく、恐る可き獄やに打伏して、其夜受けた傷處の愈ゆるを待ち合せ升たが、其中何等の故にか、敵黨の中でも火水の相容ざる間柄で有つた某貴族の手に渡され、身は虎の腮の下に匍匐する境遇に陷りました。入れられた牢やの堅固さと、手に道具一ツ持たなかつたとを思へば、塀を嚙る鬼の牙のない限り、迚も逃れる手段はないと諦めた様でした。元より弟は、兄の居處はさて措き、政事上にさほど關渉して居つたとさへ、一向知りませんでした。

さて、此牢やの戸には、一ツの穴があいて居り升て、毎日幾度となく此家の主が、中なる囚人を見に參り升た。食物も此穴より投げ與へ、夜のものゝないとを嘆き升たらば、薄布團一枚と、荒ゲット二枚を入れて與れ升た。

外には獄中壁に寄せかけた大きな櫃ひとつ有る切りで、此櫃の中には、大石が半分ほどまで詰めて有つて、逃れやうとでも企てた曉には、此大石一ツ其頸引かけて、雑作もなく向ふの河へ投げ込むことだと、嚇しつけられ升た。

晝も眞暗な此牢やへ、日の光を運ぶものとては、前に度々申した角板の小窓計りでした。併し敵が度／＼こゝへ通ふて、拔目なく見張つて居る爲に、晝の中は何も出來ませんかつた。夜の十二時頃から三時ごろまでは、牢守が殘らず眠につく時間でしたが、此時は、眞暗故、闇にさぐる手先にあたるものとては、堅固に厚き、壁計りでした。あわれ、瘠せ衰ろへた手二本に、どふしてこれが碎けませう。

悲嘆と絶望とを極めた月日を過し行き升中に、牢守の一人が、此有樣を氣の毒に思ひ始め升て、聊かにても囹圄の憂さを拂ふ助けが出來るならば、して進ぜようと申入れ升た。囚人は哀れ氣に、「されば私は讀書を樂しみにする者ですが、今此通り

な身分になつても、書物に眼をさらすとが出來たならば、憂苦を忘るゝ暇もありませうが、晝の中はあの通り其自由さへ與へられず、切めて夜に入つてから、上なる小窓に燈があつたならばと喞ち升た。

牢守はこれを聞いて、尤もと思ひながらも、恐氣があつて、おしきつて其請求に應じるとはいはず、其も、出來ぬ相談とあきらめなさいと諭し升た。併し四人が度々推反して頼み升ので、件の小窓の高さと其穴の少さい處を考へ、其燈をよこしてと頼む手紙の文面を聞き、弟に已が有家を知らせる譯でもないとを承知し、遂に其文を名あての人に届けるとを承諾いたし升た。承諾をする前には、万一弟に話しが出來ても、決して言葉を交すまへといふとと、何とが有らふとも牢守に迷惑はかけまいといふ嚴そかな約束を求め升た。

此牢守は、逃れるとは到底出來まいと諦めて居たものか、逃れる助けをするとを厭はなかつたものか、あるひはただ何かなしに彼の人の薄命を憐んで、其燈に害のあらう道理がないと考へたものか、何れにしても、毎夜獄の中を隈なく改め、とり別け小窓の鐵の格子に眼をつけたとは事實でした。然るに此格子は四人の頭より遙か上に有升た、且つ毎日改める度に異状のない處から、牢守も安心して居る樣子でした。併し獄を破ぶる難業は燈の來た其夜をもつて始まり升て、大願成就の時まで一と夜の休みも有ませんかつた。

此大櫃は前に申した通り、半ば大石を以て滿たされて居り升た。さて燈が來て音のせぬ樣仕事の出來る時になり升と、第一に例の布團とケットを床の上にならべ、それから其櫃の蓋を開らいて、中なる石を一ツ〳〵に此上へならべ、空櫃はヤオラ彼方へ押除け、さて櫃の後ろと下なる積み石を、少しづゝ崩し始め升た。

世に稀なる巧みを用ゐ、此上なき注意をほどこしつゝ、此六ケ敷事業に當り升て、倦ず撓まず徐かにこれに從事いたし升た。然るに、其櫃を空にするに二十分を要し、音せぬ樣元の處へ返すが、これまた二十分を要し升た。それ故肝腎の仕事をするに、あと二十分より暇はなかつたのでした。

其燈がないとすれば、其石を持運ぶ手先がどの樣にくるふかも知れず、一寸でも聞咎めらるゝ程の音をさせ升たら、瞬の間に、何もかも見付られてしまふとでした。かてゝ加へて漸く崩

した石も土も、大櫃も燈の消行くまでには、悉く元へ戻さねばならぬと思ひ升と、實際仕事をする時間の尚さら少なくなるヿが分り升。

始めの九ヶ月といふものは、思の外進歩が見へませんかつた。あとの二ヶ月は崩した石や土の處置に非常に苦しみ升た然るに忘れもせぬあの最終の夜に至り升て、地平よりはまだ〳〵遠いながら石塀は疾に徹して居り升たから、力に任かせて土を落して居り升と、俄に存外の土くずれが落ちて來升たから、大に力を得て、管はず獄の床の上へ其土を拂らひ落し升た。さうして當るか外れるか大膽にも今よひ一夜に一生の運ためしをして見よふと決心いたし升た。再び堀り開けた穴へ竄込み、片手を頭の盾とし、片手で上を推し升た。土はます〳〵崩れ落ち升た。遂に呼吸も止らん計りに上が上に土煙を被ぶり、現れ出た平石を命限りの腕力もて跳ね除け、とふ〳〵再生と自由の境界に逃れ出升た。

此物語りの中に何れを最とも著るしといたしませうか。一片の端書に通じた依賴は必ず應ずるものと確信して、一身の存亡を一ッの信任に賭し得た兄の心ばへか、またはろく〳〵理由の分らぬ命令を倦まず終りまで守り遂げた弟の忠實か、何れでムませう?。何れも今の世にはいとも〳〵稀れでムます。併し骨肉相食むといふ動物世界はいざ知らず、苟且にも靈性を具へた人類が交際上互ひに欺くといふ樣な卑劣なヿなく、互に相愛し、相痛はるといふ美しい掟が一般行はれる樣になり升れば、何も著しいヿはなく、極く普通なヿになつてしまひ升。私共は世に出で〻、道德の指のさし示す處、良心の墨繩の打つてある通り、一々歩を曲げず順奉して、强がち我勞苦の報酬を待たず、結果を見んヿを求めず、終日つとめて倦むヿを知りませんでしたら、聊か此愛す可く慕ふ可き兄弟にならふヿが出來やうかと思ひ升。世に出で〻歩む可き道を歩むは報酬の有無には關はりません。德行は別に報酬を求ずとも自ら生む喜悅が即ち其報酬です。況して上には天帝の在す有つて、私共の行路如何を氣遣ひつ〻、與ふ可き冠を手に持たるま〻慈愛の御眼を斷へず私どもに注ひで御座るヿとおもひ升れば、須臾浮世の辛きを忍ぶがなんでつらひことがムませうか。德行の効能が速時に見へぬも、有德の人が强がち世に榮へぬといふも上帝が所謂、私どもを鍛錬し玉ふ處で、私ど

（一一）

もが一方には大ひに愼しみ、又一方には非常に感謝す可き處です。

汝の爲す可きとはかく〳〵なりとて大恩ある方より命令書を送られたものは誰でせうか?。たゞにアンセルモでは有ません、私もあなたも、皆さまがそれと同樣上帝より格別の命令を賜はつて居り升。其命令書を順奉するとせぬとは人々の心一ッで、結果のよしあしは强ち今知れぬとは、彼の弟の恩義のある兄の命を疑がひ、或は疑はずとも彼是躊躇して是を果さなかつた時と同しとで、德義上勇氣と忠實がない爲、たとひ救ふ可き兄の命を救へなかつたとしても、直には知れるとでは有ません。御同樣嚴かに考へねばならぬは世に生を得た母の義務の深く重きとで厶升。

眼に見へぬ者の力に依り、上に懸つた微かな燈を便りに、孤獨の身を以て至難の事業に從事する人は、誰でせう?。アンセルモの兄一人ではなく、世上時として、微かな道德の光をしるべに、いとも困難なる義務の道に步を進むる人は皆それで厶ませう。あの樣な微かな光では働かれぬと呟やき玉ふな迚も此困難なる事業に堪へ忍ぶとは出來ぬと落膽し玉ふな。堅固な壁もいつまで其勇氣ある腕に抵抗いたしませうぞ、あの細く微かな光りが煌〳〵たる白晝につぎ、長く堪ゆる人が靈性の自由を樂しむ日と存外知らぬ中に、最早近きにあるかも知れません。

論說

教育の最要時機（續）

増田たき子

幼稚園

幼稚者教育は其家庭に於て及ぼすに如ずと雖ホームの組織不完全なる所に於ては之を補はんが爲めには宜敷他の保育者に任せずんば完全に幼稚者を教育するを得ず、爰に於て乎幼稚園の必要あり、抑も幼稚園はルーソー氏ペスタロヂ氏等の所說に準據しフレーベル氏が千八百三十六年に於て初て是を起し幼稚者の學齡以前に於ける教育所となせる所にして我國今

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日の社會の上より見れば此の幼稚者教育所なる幼稚園を盛んにすることと實に一大急務なりとす、明治九年七月故中村敬宇先生の盡力により獨逸國出生の人松野クラ氏を聘し東京女子師範學校内に設立せらる、是れ本邦に於ける幼稚園の創始なり、爾來諸所に設立せられ公立共立私立の設け少しとせず東京市大概各區に一つあり、地方に西洋人によりて建てられたるものあり、其類なるもの東京にも亦一つあり。抑も弗氏が敎育法の目的は人の心中に存する神の性質を開發することを旨とするにあるなり然るに此の根本の精神なる宗敎上の觀念を除去し反て形骸而已を尊信するものあり、氏は人類の苗を養ふ故に學校と名けずして幼稚園と稱し翫具は父母より恩賜の義にして恩物と稱へ其他敎場を開誘室躰操室を遊戲室と名けしは深く意を用ひし所にして幼稚者が樂しく歌ひ遊び戲るゝ内に不知不識德智躰の三育を行ふこと恰も雨露の助けを得て草花の成長する如くに之を培養せんとの意なり、然るに尙ほ智育に偏するの傾きあるは方式の末に拘々たる今日に於て勢ひ止むを得ざるに依る乎、其効能に於ても學校敎師は云へり、敎ゆるに當て入園せざる兒に比しては殆んど最初に敎ゆるの如き感なしと保姆は云ふ、後年送らるゝ學校の良否に關すと故に概して智育の點に於ては効ある者の如し、されど幼稚園は單に智育を授くる所にあらずして將來の諸敎育の基礎を造るものなるが故に今日普通の方法にては未だ十分の目的を達せざるもの丶如し、若し此の敎育法宜しきを得る時は最初に刻せられたる印は決して學校の如何等によりて左右せらる可き者に非らずして一生其頭腦中に斷ゆることなけん。

然るに、この幼稚園の起ること尙太はだ盛んならざる所以は之を單に遊ぶ所と而已思惟して一種の贅物の如く見做すもの多きによると他は極めて貴族的に過ぎ多分の費用を要するが故に中等以下の家に於ては入園せしむること能はざるが故なり、現に近來製艦費義捐の敕令發布以來幼稚園生、減少の報あり、是れ好例を表せり、現今の方法到底一般に普及すること能はず必らず改良の法あらざる可らず。

保姆

保育者は母に代りて兒を敎導する者なれば慈母と敎師とを兼ぬべきものなり凡そ敎育は敎師其人を得と得ざるとによる、敎師もし其人を得ざる時は神の寶を損ふに均し、幼者の無邪

氣なる心中は透明なること鏡の如く、敎育者の眞型は悉く之に映じて磨消することなし、かるが故に是に從事するの人宜しく修養鍛練して己れ先づ立派なる活摸範たるべきなり、而して保育者の資格は敬神愛人眞理と自己を重んずるの完全なる理想に向かつて進まんとする者にして少なくも普通の學科に通ぜざる可らず幼者を尊敬し切に彼等に同情を表する者ならざる可らず。

往々保姆は少しく敎育あれば足れりと稱ふる者あれども是れ大なる誤謬なりフレーベル氏嘗て師範學校の敎師となり好結果を得るにも滿足する事なく自ら準備の足らざるを感じて再びペスタロッチーの門に入りたり然るに滔々たる世人は此の保育者の大任を輕視して冷淡なる練修所に委托して敢て顧みず反て此の重大なる敎育に從事する人は一般に冷遇せらるゝ傾きなきに非ず又保育者自らも多くは他の敎育者よりは卑しとせり如此にして安んぞ眞の目的を達するを得んや實に此大任に從事する人は本校及び他の宗敎學校に於て精神的に養成せらるゝ諸姉を措きて他あらざるなり吾人は精神的敎育ある姉妹の奮て此の大任に當り給はん事を切に熱望して止まざるなり。

恩物に對する意見

必らずしも弗氏の恩物は千古不動の物にあらざるべし。凡て創思は普通の人の能はざる所なれば氏の方法を標準となし國と土地に從ひ取捨し容易に得られ又造らるゝ者を擇びて日常卑近の物を恩物に利用する時は反て氏が自然的敎育の精神にも叶ふなるべし一例せば板排べ積木の如き兒の尤も好むものなれとも彼の恩物內の物に限らず有合せの木にて代用せしむるを得折紙の如きも紙は必らずしも伊豫文ならずとも是に代用する色紙あり。而して恩物を製造するの家は東京內何ほ一二の外ならずして從て極めて高價なるが故に自然多費を要し隨て幼稚敎育の奮はさるの一元因ともなるなり。

保育法は成可く自然的にして幼者を苦しめざる樣に注意せざる可らず大人には遊びの如く見ゆるも幼者に取りては太しく心を勞するもの往々あり又幼兒は自ら研究的の精神にとめるもの故寧ろ智育は放任するも可なり恩物には板排べ摺紙積木畫切紙粘土細工等の如き又歌修身等の如く尤も好む者を擇むべし（土細工は保育の注意を要する者なれ共天性尤も好む者

にして自ら思ふ所の形を外表することを得るものなれば之れ必要の物と考ふ。

幼稚園の搆造

衞生上には尤も注意し開誘室は粗雜なるも庭は成る可く廣く自然的に造る可し別に花園を設くべし幼者は天性戶外を好む者にして此は唯健康上益ある而已ならず心を爽快にし同時に眼耳等を教練するか故に幼者の開發的の精神に天地の美を知らしめ自然物に接せしむる時は造化大能の御手の元に廣大無邊のものゝ存するを知らしむるに尤も効あり局束として家內の型鑄內にのみ挿入せず天地の美妙なる觀念を吹き込むものは此戶外の保育に優るものなし。

普及の策二あり

即はち一は不必要なる費用を去り平民的になし何人にても入園せしむることを得る樣に至らしむるに在り。

他は戶々のホームの需に應し保育者として依賴せらるゝにあり。

是れ例なきにあらず英人ロック氏家庭に教師を聘するを以て幼稚者教育の最良法とせり尤も此の事は少しく地位あるものにあらざれば能はず。

此の如き極めて奢の如しと雖若し從來の習慣によれる幼者に不必要なる衣服其他物を節するときは差して難事にあらざるなり奢侈滔々たる現社會にて不必要なる衣服虛禮等を競て此最も切要なる教育を節するは是眞の經濟に非ざるなり。

此事實行せられ教育ある女子是に任じ世人の注目を引き幼稚者教育の斯迄重ず可を了知するに至らば國家の幸福是に過ず是普及の策第二なり以上の策は漠然たる空想の如く極て至難の如くに思はるれども決して左程の難事にあらざるなり

實に幼稚教育は世に出るの曉より死床に至るまで繼續し否倘ほ墓中に埋沒するにあらずして遺傳の理法によりて其子々孫々に至る迄長久に永續するを思惟する時は轉此れに從事する人の任の重きを覺えしむ而して此至大至重の使命を負へる者は母なりヘルプス曰く水磨を轉する水流の源は寂莫幽僻の地より出づ此世界を動かすの勢も又幽隱の所より起ると。

此の如く人の一生榮枯盛衰は實に此隱微なる母の感化如何に決するを知べし多は偉父反て賢兒なく賢母常に偉人を產するの理を考ふるに如何に母の感化の重大なるかを知に足べし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

今日日本國風を一變し見をして眞率沈着眞理を重んじ愛國の氣風熾なる風俗を造り出すもの賢母にあらずして誰ぞ教育ある母に非んば完全なる教育を行ふヿ能はず是れ女子教育伸張するにあらざれば到底行ふヿ能はざるなり然れ共女子教育は他に比して遠大なる希望なるが故に急に行はる可きに非るなり爰に於て母の如くに充分に保育するヿ能はずと雖是が一助として幼稚教育の必要あり實に是を伸張するヿ目下の大急務なり而して此教育は隱微の內の隱微なるものにして其功寂として聞えざる內に沒するものなり例せば最初に地を耕やし種を蒔きて他に任せたる人の如し其作物の秀て其發萠したるを喜ぶ所のものは第二の人なり幼稚園手は第一の人の如し之を保育し少く物を辨別するに至らば已に學齡に達するが故に是を小學校に委ねざる可らず此の事業一種の潛勢力にして他日諸教師を通して實を結ぶ時初て天下に大効を奏するに至るものなり而して其責任を考る時は實に偉大にして實に女子特得の天職なり是一種の戸內戰死的の事業にしてクリスト敎の眞想なり經に曰く我は人を使はんが爲に來れるに非ず人に使はれんが爲に世に出たりと故に此のいと少さき一人に對するは即ち神に仕へ奉るなるを思ふ時は其快樂何物か是に如かん。實に是れ同胞姉妹の天職にして苟くも將來の新日本帝國の幸福を慮るものは此教育に注目せざる可らざるなり。

理學

雨雪（下）

馨子

理「のたまふ如く、浮世に雨のなかりせば、文情を減ずるヿ多からん、然はいへ、冬の雪の降らざるヿ就與ぞや、熱帶の諸國にては、終歲雪といふものは見しこともなきを」といへば、文「それは我も聞き侍り、先年暹羅の皇族、我國を見舞はれし折、東京にて雪夥しく降たるに、いと珍らしく興あることに思ひ給ひしと、其頃の新聞に見え侍り、去れば雪なき國の人、又は雪少なきところの人は。雪を又なくをかしきものに思ひ侍れど、越後などの雪國にては、是程邪魔に、是程

恐ろしく五月蠅きものはわらじと、其事北越雪譜にも委しく見え侍り、去りながら、月雪花の三ッは、古昔より一年の景物の中にても、此上なく美くしく床しきものに數へられ、詩に歌に其美を稱し、其眞を愛でしは、擧げんもなかゝゝに煩はしくなん、誹偕にては、是に又一ッの杜鵑を加へて、都合四ッの景物となし、蕉翁も其眞を吟じ、其角も其情を歌ひ侍りき、現に一天飄々として、飛絮の如く落花の如く、木々の梢の何時しか時ならぬ花を着けし風情、拙き筆には及びもなし、世にある人の巨燵の火暖かによそほひなし、吹來る寒風も厭はで、窗殘りなう打開かせ、庭面の景色喩へん方もなきが中に、四季の操のふし固き竹も、是には耐えでや折るゝ風情、さるは又筑山の彼方此方に銀を敷き延べたる、池水の氷れる上に玉を連ねたるはいふも更なり、雀の子の餌をあさりかねて、軒端近くちゝと啼ける、幼きが喜びて雪達摩ころがしつゝ餘念なきなど、愛づる身の面白さは今更言ふまでも侍らじ、若夫舟を隅田の中流に浮べ、折節は葦の枯葉の哀れなる中に掛りて、花には未だ遠き櫻の梢の雪に埋るゝを眺むるなど、風流の極にや侍らん、斯く東京にては、雪の珍らしく面白きに引換へ、越後などにては、五月蠅くも煩らはしきまでに降積むは如何、是は御身の說きたまふべき境にこそ」

理「好し我其先きを說きはべらん、抑も雪は靜穩なる空氣中に浮遊せる水氣の、甚だしく冷えて先づ一原點をなし、其周圍に氷枝を六出せるもの、去れば其形狀整然として亂れず、或は每枝の間氷面に閉ぢられて六面形を爲すものあり、或は六枝に圓點を生じて水車の狀をなすものあり、或は曲線を以て連續し花紋の狀をなすものあり、或は六枚の木の葉を以て造りたる團扇の如き形をなすものあり、曾て船將スコルスビー氏は、北極洋遠征中顯微鏡下に照らして知得たる雪片の異形九十六種を、細密なる圖畫となして世に公けにしたることあり、斯く形狀は種々ながら、六枝を持つの點は更に變らず、其間各六十度の角度を有す、去れば是を染物の形になさば、其高尙さはなかゝゝに古代綆紗にも勝り侍らんかし、雪の成立ちは今申せし通りなるが、偖其越後地方に多き譯は冬は北方の寒冷なる空氣、南方の温かなる方に向つて進む故に、北風多し、此北風は、總て亞細亞大陸より日本海を經て、我國に來るものなるが、其途中重に日本海の水氣を含蓄して、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先づ北陸地方に達し、本土山脈に觸れて氷結し、雪となると申すこと、是北越出羽などの、我國にて雪の最も多き譯に侍り、のたまふ如く越後あたりにては、雪は年中の厄介物にて、中にも積雪の多き場所は、年々家の雪の爲めに潰るゝゆゑ、冬になれば屋の上にしるしを殘し、他の場所へ逃るゝとやら、かくなれば迚も風流の詮鑿どころには侍らじ」文「否々さうも限り侍らじ、謠曲の鉢木は佐野の邊りの大雪にさまよひたまふ、やんごとなき法師のさまを寫して、其間に限りなきの文情を寄せ侍りき、近松は又是を女鉢木に造替へて、同じく是も千古の名文と稱へられにき」といへば、理「其は取除けにや侍らん、雪ゆゑに宿なしとなる人の心を思ひ侍らば、なか〳〵不慾さも盡きせずこそあり侍らめ、それに就けていふべきことを殘したり、斯く場所に依り、積雪の量に異同あれども、概するに高所は雪多く、低地は少なし、故に最高の山巓は終歲雪を頂き、其雪萬古消ゆることなし、其積量は毎年概ね三尺許りなりと云ふ、偖一年に三尺とすれば、十年には三十尺、百年には三百尺となる勘定なるが、斯く毎年次第に積り行くに引換へ、未だ高山の雪の爲めに、其高さを増せしことなきは如何、我今より其事を話し侍らん、凡そ雪の毎年消滅せざる高さ、即ち雪線は、各國の温度に依て同じからずと雖も、我國の如く北緯三四十度許りのところにては、大抵其高さ一万三千尺以上に侍り、此高さ以上は如何なる大暑中にも、雪の消えざるところに侍るが、此處に積りたる雪は、次第に增加するまゝに其重さを增し、上部は順次其下を壓して遂に堅牢なる氷塊となる、此氷塊雪線以下の雪の春夏の頃溶解するに逢へば、遂に自己の重力の爲め、自ら支ふる能はず、山の斜側に添ふて漸々滑り下る、是即ち山嶺の雪の爲めに其高さを增さゞる所以にして、又氷河の根源に侍り、彼來因河及び露西亞の諸川の如きは、概ね此氷河を水源とするものぞ、其は兎も角も、此雪の咄しに、今の暑さも忘れ侍りし」文「御身も然思ひたまふか、我も今は日光に行く心も失せ侍り、誠に人は感情の動物、始めより斯く思ひなば、既に御身に擔がるゝ世話もなかりしならんにといふ時、表の方に氷を賣る聲、いと勇まし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

春風裡

其六（上）

トオストイ、著。
不知庵主人、譯。

一日過ぎ、一週過ぎ、終に二ヶ月間は何事もなく、穩やかに平和なる田舎住居を暮したが、夫れでも一生に及ぼすべき嬉しい樣な感情で何となくソハ〳〵した。

晝の中から幻の樣な考を妄想して、迚も此妄想は實地に行はれまじき樣にも思はれたが、又僅かばかり實地に行はれた事どもは中々考へどころでなく極めて愉快であつて、眞摯な義務の滿足、嚴格なる無私慾、或は他の爲に生存するといふ事は多年自分自身に描いた妄想であるが、今は却て之を等閑にして、眞實白狀すればセルギイも自分もたゞ互の爲ばかりを考へて、全く他の人の事は忘れて仕舞つた。

勿論此中でもセルギイは毎日用事の爲め市中に馬車を驅けり、自分を跡に殘て行く、其時にはいつも辛さうに見えて、自分は其辛さうに見えるのが如何にも嬉しくて堪らぬ。

夫ればかりでなくセルギイは若し自分が傍に居なければ、何事も面白くないと自分に告げし。自分も矢張同樣で、或時は讀書し、或時は音樂に耽り、又母と共に家事向きの用を足すが、是はセルギイの望だから厭きずにゐるので、若し自分が氣がはいたばかりで行る事なら忽ち厭てしまふ。云はゞセルギイは自分の爲めばかりで此世界に生きてゐるので、自分は又セルギイを世界中で一番立派な一番エライ大人物だと尊崇し、セルギイ唯一人の爲に自分は生存してゐる事と考へ、セルギイも同じく自分をもて世界第一の怜悧な美人で、第一の貞娜な賢婦であると信じ、自分は必ず此信用に對して第一の烈女とならうと決心した。

或日自分は聖像の前に跪づきて閉目して荐りに祈念を凝してゐると、セルギイは自分の傍に來て席に就いた。自分は本より閉目してゐても氣が附いた。

『もう貴夫はお祈りをお濟しなすつたの』と自分は訊ねた。

『あア、けれども私にかまはずに……モウ出掛けるからと渠は答へた。

『ねエ、貴夫あたしと、一緒にお祈りをお讀みなされましな、ヂエ貴夫』

渠は自分の傍に座し、其腕を自分の背中に廻し、折々自分の顏を瞻覗めながら、眞面目な顏をして祈禱文を讀んだ。讀了つた時自分は嫣然として渠に抱き付いた。

『私を十歳位な子供扱ひにするネ』と渠は顏を赤めながら自分の手にキツスした。

我々の故郷のニコールスキイは、セルギイの祖先代々が住ッた土地で、そこら中皆一家の紀念で烹じ渡り、家は從來の通りタンヤナ、セショーノウナに處理されて、家具一切は自分の目には充分解らぬが、兎角結構で立派であるらしかつた。

廣い座敷にては家具が幾何學的に壁に並べられて、家族の肖像畵を一杯に掛け、拭込んだ床には手製りの蓙が敷いてあつた、又狹い座敷には古い「ピヤノ」と、二ツの「シツフオニール」と、一對の「ダイバン」と、孔雀石入りの小卓が數多く陳べられた。

取別けタンヤナ、セショーノウナが心を用ゐたは自分の座敷で、我家にて最も大事なる貴重品、あらゆる時代の、あらゆる作人の品を自分の氣に入る樣に陳べた。中にも古代の文箱は一見眼へつくほど自分を驚かしたが、さて見馴れてくると寸時も手離す事が出來ぬほどである。

タンヤナ、セショーノウナの聲は曾て聞えなかッたが、一家は恰も最も正確なる時計の如く整理して更に紊亂しなかッた。自分の姑は廊下をパタ〳〵させるを非常に嫌ひ、一家の者をして悉く上沓を穿かした。で、一家の僕婢は何れも主人を尊敬し、少しも油斷なく精勤して、自分夫婦は勿論、傍輩同士の間も睦まじく互に勵んでトント怠ける素振も見えず、更に骨惜みせず各々手を分けて働き、土曜日には大掃除をして床を拭き戎氈を掃き家具を磨き、每月朔日には一同集つて讃美歌を歌ひ、神に供へたお水を配分し、セルギイと姑の誕生日には晩餐の御馳走をして家内一統に振舞ひ、夜になれば近所のものを集め舞踏を催ふして樂んだ。

さる頃大阪の新聞に左の不思議なる廣告出たり、

〇賣物

大獵犬 ―― 二才 ―― 食物を擇ばず ――

子供は大好なり。

書架

○年中總菜の仕方

花の屋胡蝶と名を署し、名古屋の靜規堂より發行す。例言に云く、

凡そ家を治むるは主從とも飮食を同一にするより先なるは無し主人粗食するときは則ち從者も亦粗食して以て不足と爲さず主人粗食に饜くときは則はち從者も亦粗食に饜くは自然の理なり主人粗食に饜く時に粱肉を食ふ而して從者之を食ふとを得ず是に於て從者は其食慾を遂げんと欲するが爲に或は不良の心を起すに至る亦自然の勢也今ま之を防ぐの法は其菜をして或は汁羮と爲し或ひは炙物となし又和物と爲し浸物となし毎日物を易へ味を異にして主從諸人の口をして饜かざらしむるに如くはなし又時々魚鳥獸の肉を用ふと雖ども必らずしも多きを要せずして味旨く調理するとを得べし。

主意、文章ともに凡ならず、卷中の料理法極めて多きが、思ひつき亦秀ひでたる多し。一二の主婦に見せしむるに、皆な有益なりとして感歎す。

○美術の最上の天職

海外の詩人中第一等に列する人々は、「美術は、正義、進歩、及び、自由に忠實に仕ふる婢」なりとの事實を證しせり。ことに、近ごろ死去せしホイッチーアなど、尤とも能く此理はりを知りし詩人なりとす。彼が心中は道念の火にてやかれ、其熱氣ある事あるたび〱平和なる人々の血脈の中に注入したり。彼は、其最上の吟作を、公益の爲にするとを爲したりしなり。ロウエルの若き時亦た然り。現代英國の平民詩人中、たれか、ゲラルド、マッセーの如く、詩歌の天職を知るものあらんや。ウイリアム、モリスも亦然なり。(五月のアレナに於て、ピー、チー、フラワー氏)。

○世界博覽會に於る婦人

世界博覽會に於ける婦人部の運動は實に珍らしきものなり、古より未だ曾て如此きはあらざりき、此計畫に反對せし人々は言ふとをまたず、之に加擔せし人すら、かく迄でに成效すべしとは思はざりき、男子役員との折合至てよろしく万事圓滑に涉取りゆくなり、彼等に供へられたる丈の手段を以て言はゞ、到底かく迄に爲すとを得まじきものなり。此の影響は、男、女の上へ二樣に及ぶべし。女は、之にて自信を得べし。男は之によりて尊敬の道を覺ろべし。(バルチモア、アメリカン)。

○科學と女性

男女兩性間の異同につきて、古來立説さま〲にして俄かに斷定すべからず。古の神學論者中、「女は神の形に似ざるもの」とすら言へり。教授、セルギーの如きは、人類學、生理學などの上より、此主義を證明したり。されど、われ思ふに、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人類學、及び生理學の上に於て、今日かく明らかに相違ふほどゝなりたるは、必竟もと女子の發達を妨害し、之を不自由の界內に閉込め置しの結果なりとす。故に、女性の天然の眞質を知らんには、之を自由の下に置き、自由の發達を爲さしめ、以てその自由に伸張する所ろ何如なりやを撿すべき也。よりて余は人間に近き動物に於て之を見るに、犬の如き、馬の如き、其の力も氣質も牝牡の間にて左して相違する所あるはなし。獵夫は、獅子の牡よりは、牝を恐る。虎、豹などを獵するものゝ經驗も亦同じと云へり。教授セルギー氏は曰く、女子を以て男子に較ぶるに、身体心靈ともに之に及ばず、蓋し男性が成就せし丈けの正常なる發達を未だ遂げざるが爲めなり、要するに、女性は、今一段の發達を望みて半途に中止したるもの也、と。余は、此論を奇とすること甚し。元來、人間が他の動物と異なる所ろのものは何ぞ、何如なる特別の性質之に存するが爲めぞ。見よ、人を動物より區別する所の眞との品性は、即はち所謂る女性的の品質（フヘミニン、キヤラクテリスチックス）にあらずや。又、腦の組織の相違を以て男女の優劣を論ずるものあれど、單に腦の組織を言わば、人と猿の一種ゴリラとは別段相異なる所ろあらざる也。胎生學上、人と動物とを區別する之よりも更に大ひなる相違の點は、骨盤の形にあり、何如に迂遠なる生理學者にても、人と猿との骨盤を見分けがたきものはあらざるべし、然るに、女子の骨盤は、更に著らしき一躰型を現わす、進化發達の上より言はば、寧ろ一段の進歩にあらずや、この一事より言はば、男子の骨盤は、女性のよりも猿に近し、即はち其發達劣れりと言ふことを得べき乎。論者言ふ、人は二足にて直立す、これ他の動物に優るゝ所なりと、もし果して然らば、婦人は、其骨盤の結構にて、直立直行に尙更都合よしとて重んずべき乎。ダルヰンは言へり、雌牝の動物は、雄牡の態に反ることあり、左れど雄牡の態より雌牝の躰に反るは稀なりと。又、雄牡を産するよりも、雌牝を産するには、生物學上好都合の事情を要す、何んとなれば、雌牝の胚子は、生氣を含むこと多きが故なり。統計學も亦之を證す、不好都合の時には、女よりも男の方多く産ると。もし此等の事實より歸納すれば、女性こそ進化の階段を履むこと高きにあらずや、左れば、今の科學的論辨によりて、女性を輕んぜんとするは、不道理なり、と

(A. Mosso in "The Breslan Deutsche Revue")

○出張看病

合衆國ジヨンス、ホプキンス、病院の看病婦長イサベル、ハムブトン孃は、慈善雜誌（チヤリテース、レヒウ）の近號に於て說きて曰く、病院にうつしがたき、貧しき茅屋の下にて呻吟する貧病者の爲めに、出でゝ看護する看病婦を要すること今や一層に切なり、倫敦の主府看護病院にては、夙に此事に注目し、ロンドン市內の各區所々に看病婦局を建て置き、其區其邊にて出でゝ看病せしめ、又巡回教師を置きて此の各局を巡りて教授せしむることゝなせり。此計畫は、千八百八十年に初めて着手したり。此の初年には、出看病の數、四百七十七回なりしが、後十六年、千八百八十六年には、一千二百五十七回となり、千八百九十年には、更に增して、千七百回となり、一昨年即ち千八百九十一年には、更に亦增して、三万〇二百八十四回となりぬ。ボストンにても亦同樣の仕組を立て、市內を施藥區に分ち、各區に施藥掛を置き、其指揮の下に、看病婦を置く、かくして去年一年間に看護せし病人は二千六百十四人、回數は二万三千四百十六回なりし。而して、此の施藥看護局の目的は、外に一般衛生の事をも心掛け、其近邊所々の家婦に家內衛生の事を教示することをも旨とせり。シカゴに於ても亦同樣の企あり、看護婦長一人、看病婦七人、雇看護人四十人を備へ、各區を巡回して要める所に出看す。去年中、看護せし回數は一千四百〇七回、訪問せし回數は、一万三千四百三十九回なりとぞ。

○婦人の建築師

婦人の執る可き職業の中、建築師となることの如く、相當且つ有益なること少なきに、之に注目する人の少なきは、何故ぞ。家は婦人の掌どる所ろなり、內部の裝飾は言ふ迄もなし、間取り、其外、男子の氣の付かぬ事多し、婦人にして、建築師とならば、此等一切の事、皆宜しきを得べけん（ニウ、ヨーク、レツジヤー）。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

破鏡怨

村上佛山翁の棄婦行を讀めりしに、言々哀惻、句々悽愴、覺へず涕を拂ふて嗚咽せりき、噫、人世の恨事いづれか破鏡に若かむ、痛たましとも慘たましき限りなりけり、いかで世に輕薄なる夫の、兎もすれば糟糠の妻を堂より下す、戒とも婦たらむ者のかゝるおりだにも、貞操の德を失はぬ訓とも、はたまた未婚者に、つまさだめの等閑なるまじきを知らしめむよしにもと、さて新體の歌に飜作せまく筆を下せり、原作のいみじく妙なるに似つかはすべきにもあらず、其意をさへとり失ひたるふし多からむかし、棄婦行てふ題も新體の歌にはふさはしからねば、破鏡怨とひきなほしつ、觀る人この心を得てよ、

七月十七日の夜　　すみれ

三日月の　眉もそらぬに　しら雪の
いろもうせぬに　とつぎてし　日より歳月ぞ
とつぎてし　年はいくとせ　うつそみの
世にあるかぎり　おしのごと　むつびかはして
かくりよに　いゆくもおなじ　つかあなと
かたらひ來しを　あやしくも　秋たらそめぬ
くやしくも　はやうつろひぬ　いもとせの
かたき契りも　けふよりは　あだとなりてし
かくばかり　やさしき夫に　かしづくは
おみなのさちと　ひとすぢに　思ひあがりし
あれぞうき　かなしきあれば

＊　＊　＊　＊

ねりいとの　黄にもしむべく　とてはまた
くろみもすてふ　もろこしの　ひとりのかごと
しかすがに　うべなりけりな　いまぞしる
そのことわりを　人ごゝろ　げにたのまれね
おとこはも　とてありぬべし　おみなはも
いかでとあらむ　ありぬとも　あれはえあらじ
いかであが　れんりの帶を　ときもちて
脊子がみあしの　くつひもと　なすよしもかな
わきかへる　なみだにそめむ　ねりいとを
からくれなひに

＊　＊　＊　＊

曇りなき　淸きこゝろを　うちあけて
しらせまほしゝ　汚れなき　赤きこゝろを
きりさきて　見せまほしけれ　我せ子に
さゝげしいのち　いさぎよく　今こそすてめ
なまじひに　世にながらへて　いかでかは
うきにや死なむ　さりながら　はらにやどれる
いとし子は　いかにしてまし　そをもへば
死にも得ならず　さこそはきよら　いのちおしけれ
いとし子の　こゝろして　我せ子に
おもわぞ似なめ　たまにたとへて　はぐゝみつべし
たなそこの　ちゝなくば　よしたまに
あはたぐふとも　誰にかよらむ　誰かたのまむ
ちゝなくば　　いとおし子
あはれいとおし

＊　＊　＊　＊

すみなれし　家ゐをさかり　なれきてし
ぬひ等にわかれ　たゞひとり　くろまにのるも
なよ〱と　あゆみたゆげし　ありの實の
花しほたれて　なみだはし　雨とこそふれ
ふところに　おさめしふみゆ　このふみは
あれをさかると　我せ子が　手してかけりし
しこふみと　人はいへども　あが身には
こよなきたから　けふよりは　せ子とも見なむ
たとしとも　たとき此ふみ

女報

淡海子編

●皇太后陛下の御見舞　伊藤首相の令息式部官伊藤勇吉氏、山口縣下馬關に於て病氣に罹れりとの報　皇太后陛下の叡聞に達するや、殊の外大御心を惱まされ去る廿一日御見舞として、伊藤伯迄夥多の物品を下賜せられたるに付き、伊東書記官長より馬關なる伊藤伯に此の優渥なる恩召ありしとを電報したれば、伯は御仁德深きに感泣し、伊東書記官長を代理として同日參內せしめ宮內大臣を經て御禮を申上げぬ、

●皇太后陛下の御寫經　皇太后陛下には先年御手づから戶帳を織らせられ、泉涌寺靈明殿なる先帝の御尊牌へ御寄進遊ばされしが、今度御追福の爲め般若心經を同寺へ御寄附あらせんとの思召にて、此程より紺紙へ金泥もて同經を御染筆遊ばせらるゝやに承りぬ、(時事)

●拜謁　去る廿六日午前十時今般和蘭國より歸朝せる公使館書記官柵橋軍次氏の夫人へ　皇后陛下より拜謁仰付けられたりと、

●華族女學校の卒業生　同校の卒業生は左の如く十名なりと、

原田春生子、長谷川芳子、川田いと子、保科璺子、吉原靜江子、太田幸子、矢野みつ子、小幡仲子、三嶋竹子、

●婦人攝受正法會　毛利、蜂須賀、大隈、井上、山田、谷、島尾、武者小路、谷元等の各婦人が發企と爲りて、今度新に目白の僧園內に標題の如き一會を組織し、時々僧園其他便宜の地に釋雲照師を始め諸高僧を聘して法話を聽聞し、尙ほ行々は婦人に關する一雜誌をも發行する筈にて、數日前已に愛宕下青松寺に於て其發會式を擧行したるよし、

●榎本子爵夫人の逝去　榎本子爵夫人は長病にて、是迄に數回危篤に瀕せし事ありしが今度は病勢いよ〳〵革りし由にて、子爵は一切外人の面會を謝絕して自ら看護し居りけるが遂に養生かなはず去る二日午后永逝せられたり、

●京都高等女學校の將來　京都府高等女學校は、本年度より經費の途を失ひ、三井家西本願寺等の寄付金を始め同校職員の獻金等にて漸やく維持の法を立てたれど、明廿七年度は迚も充分の寄附金を得る目途なしとて、本年の通常府會には地方稅經費へ引續の議案を提出せんと、當局者は目下其豫算を調査中のよし、

●布哇廢女皇を國外に遷すの巷說　合併派に於ては廢女皇の同國に存在するは、徒らに土人をして復位の望を增さしむるに止まり、假政府の政策に妨碍を爲すこと少なからざれば、國外に遷し災の根本を絕つの計畫ありとの風評あり、六月十日シナー、チフ、ペキン號が桑港に到るの途、同島に立寄りし頃、該船により直に之を執行すべしとまで云ひ觸し、人心稍々騷然たりしが、別に何事もなく相濟みたり其後は此風說漸くに薄らぎたり、蓋し是れ合併派末流者の唱ふる所にして、當路者も亦今日は既に此等の事の時機に後れたるを知り乍ら、是れ等の輩を制御するには隨分苦み居るやの觀ありと又客年の議會に於て通過せし帝室費及皇嗣カイウラニ內親王の留學費、幷に歸國旅費等は廢止する旨先般通達したるやに聞知す、(東京日々)

●佐々城豐壽女史　曩きに數人の子供を伴ひて北海道室蘭に移住せし、佐々城豐壽女史は所有地近傍の人氣惡しきを厭ひ、目下紋鼈に轉住して小兒を背負ひ自分鍬を執りて耕作し居ると云ふ、

●同志社女學校同窓會　は去月廿八日に開かれたり、午前は會則を修正し議案を議決し、午後は會員去校後の實驗談をなし、夜は教師生徒をも合はせ下庭園に會を共にし、在校の新舊に從て數人の者女學校の太古中古近世現今等に付實地目擊の談話あり、一坐興に入れり其他對話長刀の操練等の餘興もあり、會員北陸南海等よりも來集して頗る盛會なりき、同會の議決により來學期より每期一回の報告を會員に頒布すると云ふ、

●二令孃の結婚　此程華族女學校全科を卒業したる、小崎前岐阜縣知事の二女仲子は兼て故長田銈太郎氏の遺子、長田忠吉氏と許嫁の中なりしが、愈々近日合卺の式を擧ぐる由、又同卒業生川田文學博士の二女糸子も、近日島田文學博士の令息と結婚する由なり、

●裁縫に關する省令及訓令　井上文相が「實業教育」に熱心して其施設に汲々たるは既に世の知る所なるが、今又裁縫科獎勵に關する省令及訓令を發布したり、明治二十三年公布の小學令を案するに、其第三條に「尋常小學校の教科目は……：土地の情況に依り女兒の爲には裁縫を加ふることを得」とあり尋常小學校と雖も之を加ふることを得べく、高等小學校に至つては第四條の「高等小學校の教科目……は女兒の爲には裁縫を加ふる者とす」との正文に依り當然之を設くべき都合となり居るなり、然るに尋常小學は言ふまでもなく、高等小學に於てすら之を教科目中に置かざる者あり、現在學齡兒童百人中修學者は漸く五十人强にして、其の中女子は僅に十五人に過ぎざるは、是れ實に女子に最も必要なる裁縫を教科目中に加へざるものあるに據るなり、井上文相も夙に此點に注意し深く女子の前途に就て憂慮する所あり、不就學女子の父兄を勸誘して就學せしむるとを務むると同時に、女子の爲に其教科を實用に近切ならしめんとの趣意より、遂に今回の省令及び訓令を發するに至りしとぞ、

●寶物の紛失　伊太利皇后マルガレッタ陛下が、シカゴ博覽會に寶物のレースを出品ありしとの事なるが、去月十日事務局に於て其の荷を解き函中を點檢したるに、其內三十枚紛失したるを發見せしかば、其の騷動一方ならず早速羅馬に向て電報を發したる由、右の紛失に就ては博覽會會社に於て其の責に任ぜざるべしと云ふ、其故は同會社より嚴きに十萬弗を供出して、伊太利に同品還付の事を保證したれども、運搬上の安全は其の關せざる所なればなりと、或る新聞は記せり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●**女學校設立調査委員會**　去月十九日私立岡山縣教育會事務所に於て女學校設立調査委員の第一會を開きたり、

●**女子學院のアラムナ、アソシエーション**　は去月八日午后三時半より、同校アラムナ會に於て執行せられたり、當日の會集者は、同校卒業生及び同校教員等にて、書記の報告並に地方會員より寄送せられたる文章朗讀、音樂は、美山夫人の獨吟等あり、各十二分の歡を盡して散ぜしは后七時頃なりき、

●**立教女學校**　築地居留地の同校は追々隆盛に趣き現在生徒七十余名あり、去る十八日第三回卒業式を執行し、來賓は紳士淑女百數十名にて中々の盛會なりしと、今回の卒業生は六名にて左の如し、

松枝すま子　松崎さく子　岡本もと子
清水きよ子　名出鶴江子　早川己壬代子

●**大阪川口のプール女學校卒業式**　は去る十三日同校にて執行せられたり、來會者は同地の豪商紳士貴婦人及令孃京都神戸地方よりの來賓を合せ凡そ二百四五十名にして、アーチデヤコノ、ワレン君式を司どり、牧岡牧師の祈禱勅語捧讀、本田增次郎氏の演説等あり、終りに茶菓の饗應ありたり、今回の卒業生は本科卒業、三崎ちく子、蘆田きみ子、英語科卒業、木庭房子、三崎子ちく子の四名にして、近頃盛式なりしと、

●**田村直臣氏と日本婦人**　田村直臣氏は此程英文にて日本婦人と題する一書を著はし、之を米國に發布せし由なるが、謂る所ろ日本婦人の醜躰を遠慮なく發きたる者にして、既に其序文に「余が此書に打明けて寫し出せる日本婦人の内幕は決して外國人の知り得ざる所ろ、又日本人が人に告ぐるを厭ふ所ろにして、之を世の中、殊に外國に知らしむるは暗やみの耻を明みに出すと爲す者なり、余は事實を愛し眞の同情を以て少しも恐れずに書記したり」など有るを見ても其如何を推量するに足る可く其本文中には「我が日本國には愛の爲め婚姻と云ふ者無し、日本人は愛と情との區別を知らず」などの語も有る由なるが、英字新聞記者之を評し世界中孰れの國民が愛と情の別を知りて婚姻するやと詰り、猶ほ田村氏は宗教の上流に立つ人なるに、何を苦みて自國の耻を發き外國に訴へて、自國の同胞を譏るにやと訝りたるは當然の事と云ふ可し、幾等自己の學力を示すが爲にもせよ、又幾等米國人の評判を得んが爲にもせよ、此人にして殆ど賣國に類する此所行あるは誠に沙汰の限りならずや（廿九日萬朝報）

●**華族女學校職員の非職**　去廿八日宮内省に於て左の三氏に非職を命せられたり

華族女學校幹事北　澤　正　誠　同教授那　珂　通　世　同秋　山　四　郎

●**廣島高等女學校第四回卒業式**　は去月十八日擧行せられたり、今回の卒業生は、津川きち子、大隅すな子の二名なりと、

●**松山女學校の第二回卒業式**　は去月十七日擧行せられたり、

●**花心女史の婚議**　花心女史とは故三條内府の令女富子の君の雅號なり、君今年十六、桃の夭々たる其の葉蓁々たり、實にや桃夭の期至りぬ、容姿麗しく擧止詳雅にして、自づから氣高く内府公の令女たるに耻ぢず、幼なき頃より跡見女學校に入り花蹊女史に從ひ和漢洋の三學を修め、傍ら書畫を學びぬ物讀み書くこと劣々大人も及ばず、夙くも才名高く聞えけり、跡見學校の制たる寄宿舍を十數房に區ち房每に女生七名を入れ、其中一名を房母と稱して一房の事を監督せしむ、此の房母は學業優等にして且つ家庭の教育もありて、炊きの事髮の取りあげ化粧の仕方學課の復習などに至るまで、盡く人の母たるに耻ざるものにあらざれば託せずされば、其の任に當るもの大方は廿歳以上の女子多きに居るとかや、然るに君甫て十五にして此の選に與る是の時君と同年にして房母たりし者二人あり、大谷嘉子といひ、田村增子といふこれを跡覺の三秀と稱へけるとなん、三秀去年業を卒へ二秀早く既に他に適きぬ、三秀皆花蹊女史の片號を付して嘉子は花光と號し、增子は花鑑と號す二秀も亦畫を能くす玆に君今度某侯爵の令息と婚姻の約調ひしといへり、

●**高等教育會議**　豫て噂ありたる同會議は彌々近々勅令を以て發布せられ、是と同時に夫々議員の任命あるよしなるが、其組織は文部大臣監督の下に在て或る種の學科を代表し得べき官吏、幷に文部大臣監督以外の官吏にして直接と間接とを問ばず教育に經驗ある者、及び民間の教育に經驗あるものを以て組織し、其數三十名位なりと聞く、

●**高等女學校設立の計圖**　嶋根縣松江市修道館の館長渡部寛一郎氏は今度數名の教育熱心家と協力して同市に一の高等女學校を設立し、其科程は師範學校女子部位とし、之を二科に分ち一科を各三年宛にて修業せしむる豫定にて、近々參考の爲め鳥取市なる英和女學校に赴むき調査を遂ぐる都合なりと、

●**幼稚園保姆長死す**　曩に神戸幼稚園幷びに東京高等師範學校幼稚園の保姆たりし、竹下歌子は名古屋に設立せし幼稚園の保姆長として、昨年三月の開設の當時就職したるに、去月九日脚氣病に罹り治療中、病卒かに進み衝心して去十五日午後二時四十分廿八を一期として死去せり、翌日筒井町の建中寺へ葬送を營みれと、

●**齋藤夫人の養蠶**　齋蘇農商務次官の夫人は例年少許の蠶兒を飼育せるに、本年は永田町の邸内に蠶室を造り、例年より多く飼育せり種類は小石丸、赤莖、伊太利亞種等にて熱心に婢僕を指揮監督し飼育に盡力せしに、結果最も宜しく成繭四斗餘を得目下製糸に着手中のよし、

●**土肥實平の妻**　土肥實平、その子遠平と共に賴朝の軍に加はり、大庭、梶原等が兵と戰ひ、軍敗れて土肥の杉山に遁れ隱る、會糧食盡きて殆と饑に臨めり、實平が妻夫に之れを聞ひ、やがて一人の郎黨に髮を剃らせて、僧徒の姿に扮裝せ、簀の中に糧を充て、樒を折りて之れを覆ひ、又閼伽桶に酒を盛り、花を取つて之れに挿み、忍び〳〵に送りけれと、杉山を圍める大庭梶原が兵卒ども、絕えて怪まざりしといふ、是れに依りて、實平親子は其の主賴朝と共に饑を免れ、間を得て杉山

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を遁れ出てたり、妻また賀平へ消息して、三浦畠山が戰爭の摸樣及びその一族が男總の地に下向したりし事まで、審らかに告げ知らしければ、賴朝機を失はず、直に其の國へ押し渡り、關東諸州を擊ち靡け、遂に平家を亡ぼし、海內を一定するに至りたり、

●女子の營業　本邦女子高等の營業は女敎師にのみ限ると思ふ勿れ、齒科醫、畵師、其の他種々の業務あらん、只他に營業の途を求めず、徒らに女敎師風の學問のみを究むれば、遂に需要は、供給と合はざるに至るを知れ。

●卑屈と禮讓田舍の兒女、道に面識なき人に逍ふも、猶ほ之れに叩頭す、是れ明かに敎育の足らざるを表せるなり、苟も其の人に非ざるものに向つて、叩頭するが如きは、即ち是れ其の卑屈を現はしたるなり、敎師たるもの、之れに卑屈と禮讓の別を誨へよ。(以上三件新教育)

●アイヌ婦女の貞節　世人一概に蝦夷人種を目して野蠻なりと云へど、其節操堅くして義理を重んずると遙かに內地人に優るものあり、彼等は最も愛情に深く良人若し他行する時は、妻は堅く門戶を鎖して決して他人の閾を跨ぐを許さず、偶々內地人などが之を知らずして强て門內に足を入るゝあれば、妻は早々裏口より逃げ出す以て其節操を見るべし、若し又姦通するものある時は、男女を神前に引据へ首長先づ男女の鼻頭を切落して其罪を責め、之を五里乃至十里の外に退去せしめて、我が部落と交通するを許さずといふ、

●尙絅女學校の裁縫　熊本縣高田原尙絅學校の裁縫科は、客年敎授法の改良以來生徒の進步殊に著しく、市內の各小學校は勿論各郡の小學校よりも續々此の法を採用するに至りしが、去月六日は千田師範校長、新庄敎諭の諸氏該校に臨み、裁縫科の敎授法を一覽せり、依て同校敎員は木綿單衣裁縫上に付、一年生より順次裁縫せしめ一々是れが說明を下せり、就中佐々布ヒデ子等十二名の撰拔生が、單衣の和縫ひを爲したるは一際の上出來にて、乃ち三人を一組とし十二人に四個の反物を與へ、其內二組は裁ちたるもの他の二組は裁たざるものを縫はしめたるに、早きは四十五分間、遲きも一時間にて見事に一枚の單衣を縫ひ上げ、且つ三人にて一反の單衣を縫ひしに、一人も手あきの者なく其の運針の熟練なる參觀者一同大に感心し、千田校長の如きは不日附屬小學校の裁縫も此の法に依り改良すべしと申されしと、

●女子職工共立學校　神田一ッ橋通なる全校は實業敎育施設を必要とする今日に其隆盛を來たし、現在四百餘名にて何れも其欲する所を學びつゝあるが、其內裁縫科最も多く刺繡之れに次き圖書科最も少なき由にて、其專業は年一年に進步し、皇后職、及び大膳職よりの御註文も時々あり、特に三大節の如きは洋衣の裝飾品となるべき松飾等の御註文あるよし、又た簪の如きは生徒の需用も數多あれば他の要求に應ずるの暇なく、隨て定期の注文に應ずるを得ざるなりと、又同校は來る十日頃卒業式を擧行すると云ふ、

●貧兒敎育法　福岡縣久留米市は貧兒敎育法を此頃の市會にて可決せり、其方法の概略は市內各尋常小學校內に敎授場を設け、授業は夜間二時間づゝにして學科は修身。讀法。算術。習字。作文。敎師は各校敎師に囑托し生徒用の器具。書籍は悉皆市費を以て之れを備へ貸與する筈。但學年は三ヶ年なりと貧兒の幸福と云ふべし、

●石川縣蠶業學校設立の議　今度石川縣各郡市蠶業熱心家の發企にて、石川縣蠶業學校の設立を企畫し、此程發起人諸氏石川縣廳に出頭し、龍岡書記官に面會して大に其意見を述べ、何れも熱心に盡力中なり、今該校設立の豫算額は凡そ左の如しと、

一金四千二百七十四圓五十錢　(年額)

內譯

金四百八十圓	敎頭一名一ヶ月四十圓
金百八十圓	實業敎師一名一ヶ月十五圓
金百八十圓	敎師一名一ヶ月十五圓
金百圓	助手二名五十圓宛
金七十二圓	書記并會計一名一ヶ月六圓
金千五百圓	校舍建築費
金八百五十圓	器具備付費
金九百十二圓五十錢	生徒賄料五十名一名に付十八錢宛

(以上三件八月一日大日本敎育新聞)

●女子高等範學校の本入學生徒　本年四月各地方より假入學を許されしもの二十八名ありしが、七月の第一學期試驗に及第して本入學を許されしもの二十一名にして其餘の七名は何れも保證人を呼出し引渡されたりとか、又同校にては此夏期休業中生徒成るべく歸省せしむる由、これ親の手元に於て家事整理の實驗をなさしむるに在りと云ふ、

●聖安得烈婦人會　は六月下旬飯倉ショウ氏宅に於て同會がなしたる「バザー」にはは其手製品の賣揚高三十七圓なりし由(八月一日日曜叢誌)

●河野廣中氏の北堂　此程物故せる同氏の北堂の賢明なりし事は豫て聞及しが、今其小傳を得たれば茲に略記せんに、刀自名は利代文化庚午七月廿七日三春河野氏に生る、先考男無く其族春山某を養ひて嗣と爲し君を配す、人と爲り思操高潔行狀端正精勵にして外溫順、頗る慈惠の心に富み善く施して蓄ふるとを爲さず、常に自ら言ふ楠公の人を心服せしめし者は財を輕じ飮食を共にするに在と、其の子弟を敎育するや常に三國志を口述し、然る後汝は何人を慕ふと問其慕ふ所の人を模範となさしむ、安政二年(卯)正月良人を失ふ、良人曾て一富豪と葛藤を生じ久しく決せざるものあり、一朝世を去り爲に殆んど一家傾覆の難に遇ふ、刀自寡居し自ら外に斡旋して遂に支ふるとを得たり、安政年間米艦初めて渡來するに當て痛く開港を非とし、攘夷の說を贊し地圖を繙きて兒子に示し、國家有事の日に當ては男兒たるものゝ宜しく義に殉ずべきを訓誡せしと云ふ、万延元年母公八十一にしに(ママ)及す、其の病狀にあるや腰部不隨臥して起つ能はざるものは七年湯沐は

勿論汚穢を除去する等一切他人の手に委れず、戊辰の役宗兒𪜈𬍛、𪜈中二氏藩論を非とし孤忠大義を唱へ、竊に藩族をして王師に歸順せしめんと圖り百難を冒して大功を樹てしは實に一々刀白の薫陶に由るものにして、勤王の志厚く時に或は謀議に加りて其の欠を補ひ、或は志士を勵し亦深く密議に韜晦して一藩人士をして、曾て窺ひ知らしめざる等注意到らざるなし明治十五年歳七十三𪜈中氏獄に下る時に當りては、流離處々に轉在し其の艱苦名狀す可らざるも常に孫兒を擁護して訓誨怠らず、時々書を寄せて孫及びおのれの恙なきを報じ、以て氏の意を安んず、同十七年外孫河野𪜈體氏時世を奮慨し、加波山に義を擧ぐるもの亦幼より祖母に鞠養せられ、國家に報ゐるの丹心深く胸裡に根帶するに由るべし、同廿二年𪜈中氏獄を出でゝ居を東京に移してより以來、漸く母子團欒歡樂の堵に安ぜしなりと、(婦女雜誌)

●盛岡女學校　の普通科教員たりし、野々宮キク子は此程辭職の上去る廿五日鄉里茨城縣へ歸られし由なるが、同女子在職中は生徒に對して懇切且つ職務に勉勵なるより、同校よりは月給三分の一を贈りしと云ふ、尙ほ同女子の後任として、該校にては東京なる高等女學校卒業生某を雇入れ、不日來盛すべしと云ふ、

●山縣伯爵夫人へ御見舞　山縣伯爵夫人は先頃より痾氣の處昨今は餘程危篤の趣き聞召され　皇后陛下より去卅日御見舞として御菓子を賜はりたり、

●府下百歳以上の女子　府下の最高齡者（廿五年十二月三十一日調）は牛込區に天明五年生女一人（百九歳）淺草區に天明八年生女一人（百六歳）南足立郡天明八年生女一人（百六歳）なりといふ

●市立大阪高等女學校　にては本科、豫科、別科の外、更に一昨年裁縫專修の手藝部を增置せしが、別科は本月限り廢止することゝなり、頃日卒業試驗を行ひしに及第者三十名ありたり、此及第者に對する證書授與式は、來十一月保姆科の卒業證書授與式と併せ行はん都合なり、

●矢島楫子女史　は去る廿六日函館に到着せられ、同地勝田方に投宿せらる

●孝女　長野縣信濃國諏訪郡中洲村長坂賴明の養女、たかは豫て孝女の聞え高かりしが今回、淺田長野縣知事より左の賞金を下賜せられたりと云ふ

資性温良、明治十五年賴明の養女となる、適々養父重症に罹り、進退自由ならざるに際し、專ら勞役に服し、生計の資、藥餌の料、悉く看護の暇を以て之を經理し、又入夫を勸むるあるも、孝養の欠くるを慮りて之を肯ぜず、獨身養父に孝事する多年一日の如し、其志行洵に奇特に付、爲其賞金二圓を下賜す。

明治廿六年七月三日　長野縣知事　淺田德則

本年五月三十日より六月七日迄、東京府師範學校に於て行れたる家事科教員試驗問題、及び及第者順序左の通りなりと、

●家政問題

衣服の保存に就きて必要なる事柄を擧よ

婢僕に對する心得を問ふ

小兒哺乳するに依ては母親の養生并に心得を述ぶべし

家屋を建築するに當り其間取を爲すに如何なる點に注意すべきや

家計簿記に於て日記帳記入の方法は如何適宜の例を擧けて其記式を示すべし

事科正教員は　右五題共

全　准教員は　第一第二第四第五の四題

●裁縫科問題

(一)常巾長二丈三尺の布にて四布遣馬乘袴を裁縫すべし

(二)小袖の袖を縫ふべし、右の袖上り一寸

(一)幷巾二丈七尺五寸にて女合羽を裁つに袖丈一尺六寸五分として小衿別切になせは身の丈及竪衿の丈何程なるや

但し並縫上げ寸法を記すべし

(二)常巾長さ五丈六尺の片面染布にて男服二枚鉤衽にし共衿取り其積方寸法を記すべし

(三)巾一尺六寸長さ二丈二尺四寸布にて本裁女服無垢を裁つに袖丈一尺五寸五分にして共衿をも取る時は身の丈其他寸法如何

(四)三幅もの長さ一丈五尺の布にて男單羽織の裁合せ方を記すべし

但し裁切丈二尺八寸袖丈一尺五寸

(五)一尺二寸巾二尺四寸を以て長襦袢の裁方寸法を記すべし

(六)單羽織半身を縫ふべし

(一)一尺巾二尺六寸にて男幷のヅボン下裁縫但し二分の一

●家事科正教員

米羅くに

●同　准教員

(一)宍倉まん　(二)鈴木ひさ　(三)服部まき　(四)岡本まさ
(五)渡邊いく　(六)木村松野　(七)北澤ちう　(八)高岡須伊
(九)靑木てい　(十)柳井つれ　(十一)金子きた　(十二)五十嵐こう
(十三)大井しの　(十四)齋藤もと　(十五)河合いそ　(十六)鮎川吉野
(十七)中村ひさ　(十八)牧山きやう　(十九)飯田ろく

以上

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

淡海子編

通信員報道

●福島縣通信

◎私立教育會　去る十八日福島縣會議事堂に於て同會の總會を開き會長開會を告げ、次で會務の報告役員及び議員の選擧あり、建議案の議事總裁の演說、其他會員の演說、談話等ありて盛會なりしといふ、

◎產婆講習會　なるもの早くより設立せられ、每年一二回宛地方に敎師を派出せしめて、產婦產兒の取扱より學理上の講話等まで丁寧なる敎導を與へ、從て產婆の風儀習慣等に漸次改良せらるゝは喜しきことなり、過日來若松町坂下町に於て產婆を集めて各十日間の講習あり、現に喜多方町に於て講習中なり、又此度福島縣の產婆試驗に於て及第したるものは、喜多方町の小川某女一名にして他は皆不合格なりしといふ、

◎私立若松幼稚園　は開園以來日尙淺しといへども園兒の申込次第に增加し、目今六十名以上に達し尙增加するの勢あり、目下使用せる家屋にては到底不充分なれば、或は增築せざるを得ざるべしといふ、

◎私立若松女學校　なるもの若松婦人會の發起と地方人士の贊同とによりて設立せられんとし、目下準備中にて此度裁縫敎師として東京府裁縫科敎員たりし、山內女史を聘し假に裁縫科家政科等を敎へ始めたりと聞く、尙近日の內に和漢學幷に英語學等の敎師をも招聘せんとて紹介中なりといふ、

◎私立會津女子職業學校　なるもの之と前後して設立せられ、其設立者は、北村某、鈴木某、中野某の三女史にして、女子に適應する技藝職業、卽ち裁縫刺繡造花編物圖畫等を授け、傍ら小學敎員の贊助を以て、簡易なる學科をも授くるに至るの目論見なりといふ、かくの如き學校の此地方に與ふるは實に祝すべきの美事にして、いよ〳〵盛大に赴かんことを希望するものなり、

●三重縣通信

◎三重婦人會　從來津市に設立しある三重婦人會は重に高等官の令孃、及市內重立ちたる有志の妻女等を以て組織し來りたるも、右にては其範圍甚だ狹隘なれば今回大に規則を改正して、平民主義を容るゝ事と爲したれば、淑德の婦女子は何程の階級にありとも隨意入會することを得ることゝなしぬ、今その規則の重なるものを揭ぐ

第二條　本會の目的は同志の婦女相會し、敎育衞生等凡婦人に適切なる講話を聞き、兼れて相互の智識技能を交換し互に貞淑の美德を進むるにあり、

第三條　會員は互に無益の贈答を爲さず、衣服の如きは務めて質素簡便を旨とし成るべく常服を用ゆべし、

◎三重婦人會の講話　同會は去る十七日午後五時より丸の內なる津市女學校にて開會し、三重縣中學敎諭信夫恕軒氏得意の赤穗義士銘々傳、及同校の助敎諭岡吉胤氏　講話ありしが、參會者多く非常の盛會なりき、

◎諭旨退校　津市女學校は去る十一日生徒に諭旨退校を命ぜり原因は品行不正なりと、

◎幼稚園紀念式　去月五日龜山尋常小學校內にて附屬幼稚園の紀念式を行ひぬ、

◎德風協會　津市に於ける佛敎信仰の婦人の發起に係る德風敎會は、專脩寺住職常磐井夫人の贊助を得て去る二十二日津市寺町上宮寺にその發會式を擧行せり、當日は加藤行海氏の法話、千家裏流の點茶式などあり、參聽者は常磐井夫人を始め久保裁判所長夫人、高津參事官夫人等數十名なりき、

◎工女のストライキ　山田郡山田村大字巾野の喜多村製絲場の工女十五名は、雇主の待遇諸源則ち勞働時間の過多、粗食等に不滿を抱きて同盟罷工せしより、雇主は大に之を憤り工女を相手取り契約履行の訴を爲したり、

◎溫故堂產科學校々長山內養順氏　同氏は夙に私財を擲ちて今の產婆學校を設立し產婆の改良を謀るの傍、齒齒繼續所、婦人衞生會、產婆會を創立し、妊婦の健全孩兒の發育を裨益する所あるのみならず、各郡に數個の支校を設置して數百名の產婆を薰陶し、縣下產婆の面目を一新し又兼れて貧民を診察施藥し篤行他に擢ずる所あるを以て、去る十四日敕定の藍綬褒章を賜はりたりと、

●孤兒之友取次義捐金第拾回報告

金三百三十六圓〇八錢八厘　九回迄各孤兒院へ取次合計

金拾圓也　橫濱市某君　孤女學院へ寄附

金三拾錢　千葉縣某君　同

金五圓四拾錢　明治女學校愛の睦　同

金五拾錢　兵庫縣澤田寸次君　曉星園へ寄附

金三錢　東京市某君　孤兒の友準備金へ

金三拾錢　千葉縣某君　孤女學院へ寄附

合計金三百五拾貳圓六拾壹錢八厘

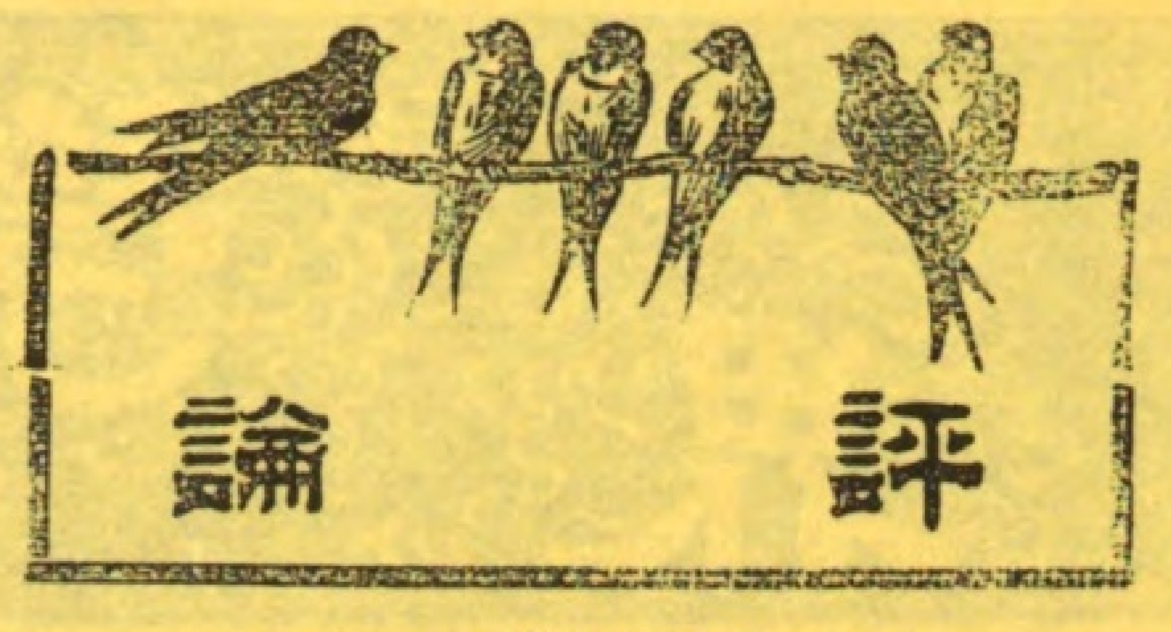
Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

第九號要目

明治廿六年

德川幕府の刑法	靜園
客舍偶錄	透谷
文界時評	流水
社會良心論 教會論	善治
にほはぬ花	花園
錦織剛淸	撫象
佛法流行	是空



北里醫學博士に對する醫科大學◎女子敎育の氣運◎現内閣は大膽なり◎禁酒に對する公問答◎ペンテフハザーの卒業◎學生暑休論◎今の攘夷論◎マーテン、マーテンス◎名優ブース◎鐵道大株主◎銀貨下落◎日本敎會◎社會に對する基督の敎訓

七月廿九日發兌

本誌代價

	府内	府外
六冊(半年)	前金 三十五錢	三十八錢
十三冊(一年)	同 七十三錢	同 七十八錢
廿六冊(二年)	同 一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵稅 金五厘

發行所 女學雜誌社

○生徒募集 規則書御入用の向へは通知次第遞送すべし

本校今回新に小學科。預科。本科。高等科の各級に入學を許す志願者は九月十日までに來校あるべし

本校は橫濱市の南方山手高燥の地に位し橫濱全市街及び港灣を始めとし總房の諸山及び富岳函嶺を双眸の間に聚め風景の爽快なる空氣の新鮮なる最も衞生に適し最も觀望に妙なり

本校の目的は十全なる普通學。女子に適切なる高等學。善良なる德育。中庸を得たる體育を授け全備せる有用の女子を養成するにあり

本校は每年本科一年級以上に校費生五名を募集す

本校は基督敎徒にしてその娘妹を敎育せんと欲する志厚きもその資力足らざる者のために特別法を設く

明治廿六年七月　橫濱山手百七十八番

フエリス和英女學校

フエリス女學校同窓會

九月十二日午前十時より會費金廿錢

長短に拘らず一たび本校に入學せし者は參同を乞ふ

同窓會發起委員敬白

東京英和女學校寄宿生及通學生募集

一本校は廣く日本女子の爲に基督敎主義に基き高等なる自由敎育を授く

一普通學部は修業年限を四年と爲し本科別科の二科に分つ

一豫備學部は修業年限を二年となす

一職業部は修業年限を三年となす

一敎員は內國人十一名外國人四名

一寄宿舍には內國婦人二名の監督を置く

一校醫は定時來診して衞生上の注意を與ふ

一入學試驗九月十一日午前九時

一始業九月十二日

一規則書入用の諸君は郵稅二錢を送られたし

明治廿六年七月

東京青山南町

東京英和女學校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學界

第七號要目

情死に及ぶ（吊歌）桂川を評して　透谷

静御前　残花

茶丈記　藤生

彙報

純美文界

白百合を枯して

袈裟女と吊ふ　天知

（悲曲）茶のけぶり　古藤庵

菊女夫と戀る文

定價		
東京市内	一冊	六錢
	六冊	三十三錢
	十二冊	六十錢
市外郵税共		八錢
		四十五錢
		八十四錢

發行　東京麹町區下六番町六番地　文學界雜誌社

史海　第廿五巻目次

◉藤榮木枯……久米邦武君

藤原氏の王朝時代に大勢力を得たるは其祖先中臣氏が蘇我氏の黨を倒せしに起因し此兩黨の爭は神道と儒佛二敎の衝突なりしとを推論せる新警の説なり

◉室鳩巣……足立栗園君

此篇幕儒中の眞君子なる鳩巣の功績を錄して餘蘊なしと云ふべし而して白石との關係に至りては一層明白なるを見る

◉ガーフ井ールド……加藤幹雄君

華盛頓、倫古龍と共に北米合衆國三大統領と稱せらるゝ大英傑が丸木小屋より出でゝ白壁殿主たるの經歷と悲壯淋漓至誠泣神の心情とを寫し以て眞に迫る

◉考證（二件）

（定價）一冊金九錢。十冊前金七十五錢。市外は一冊に付郵税二錢増◉毎月一回發兌

發行所　東京京橋區彌左衞門町　經濟雜誌社

大取次　東京。東京堂、嚴々堂、東海堂◉大坂。岡島新開舗◉京都。便利堂

◉◉◉◉◉

專門　梅毒　痔疾　淋疾　子宮

百毒即治丸

右速ニ全治受合也若シ全治セサレバ藥價返却ス◉但シ診察無料

京橋銀座二丁目東中通◉畑中堂　山本醫院

山本醫院方劑◉無効返金一週四十錢三週一圓郵税無料銀座二丁目十番地泰生藥舗販賣

◉◉◉◉◉

久津見息忠君著

耶蘇教衝突論

○全壹册 定價金拾六錢 郵税金貳錢

右ハ、多年名ヲ潜メテ、専哲學ニ研究シタル蕨村居士、久津見息忠氏ノ著ス所。井上博士ノ説ニ對シテ、教育ト耶蘇教トノ關係、耶蘇教ノ利害等ヲ論シタル者。所見卓拔、條理明晰。居士ガ、懷抱セル理想ヲ詳悉シテ、痛快ナル斷定ヲ下シタリ。宗教家、教育家ハ、必一讀セザルベカラズ

發賣所 東京麹町區下六番町六番地 **女學雜誌社**

大取次 ●警醒社 ●東京堂 ●東海堂 ●寶山堂

Dr. Rokkaku's Hair Tonic.

WAKAMIDORI

此の美髪若みどり香水ハ六角先生の御方にして夙に内外貴婦人紳士の高評を受け世に比類なき効あるものあり委しきとハ効能書御覧被下度候

髪を美くする

若みどり香水

定價 大瓶 金五拾錢 中瓶 金貳拾五錢 小瓶 金拾五錢

發賣元 横濱同境町壹丁目 明治屋 横濱電話三〇

横濱大販賣 同境町壹丁目 西嶋屋宗三郎 横濱電話二八七

横濱大販賣 東京銀座四丁目 近江屋榮太郎 横濱電話二三三

東京大販賣 同銀座三丁目 三河屋芳次郎 東京電話七九二

東京大販賣 (八) 松澤八右衛門 東京電話五三四

京橋區銀座一丁目	岸田吟香
日本橋區兩國米澤町	大木口哲
日本橋區上槇町	安川榮次郎
日本橋區瀬戸物町	玉置金八
日本橋區室町	資生堂
同區北新堀町三番地	近江屋辻助七
牛込區築土八幡町	尾澤頁助
四ッ谷區見附外	灰吹屋大枝
日本橋區兩國米澤町一丁目	神崎三郎兵衛
芝區愛宕下町四丁目	本木駒吉
京橋區新橋金春	藤井小間物店
神田區鍛冶町	松源商店
神田區須田町	安達常吉
本郷區本郷五丁目	水谷五平
麹町區平川町四丁目	廣島屋洋物店
麹町區中六番町	久保田金五郎
淺草區地方今戸町	近藤徳次郎
赤坂區田町三丁目	梅田壽々吉
深川區入船町	數井和平

本郷區本郷三丁目	いわしや彌吉
日本橋區本石町二丁目	森谷萬次郎
日本橋區村松町	岩淑長藏
京橋區銀座一丁目	佐々木玄兵衛
下谷區池の端仲町	守田治兵衛
牛込區宮比町	尾澤豊太郎
四ッ谷區大横町角	永田義原
淺草區茶屋橋際	山田清兵衛
鎧橋際蠣売町二丁目一	山田直次郎
日本橋區通三丁目	小山連綿堂
日本橋區元大坂町	高木與兵衛
日本橋區馬喰町一丁目	平尾贊平
日本橋區小網町四丁目	黒澤利兵衛
日本橋區本町四丁目	松本伊兵衛
芝區神明前	岩本新兵衛
深川區富岡門前町	小池佐兵衛
日本橋區小網町三丁目	馬島藥房
日本橋區濵町一丁目	藤屋きみ

此外有名藥店賣藥店に賣捌特約あり

○貴孃紳士必需の香料

廣告

大 六十五錢
小 三十五錢

○人造麝香は佛國理學博士が化學的の作用を以て製造せし一大新發明品なり
○人造麝香は從來の麝香に比し數倍久敷を保つのみならず實に非凡の香氣を有す
○人造麝香は純白清淨の粉末なるを以て衣類等へ擦り込みおけば一種云ふべからざる幽香を放ち大に神身の清浩を覺えしむ但し色つき又は汚穢するの患ひなし
○人造麝香は歐米各國の貴婦人紳士社會に於て隆んにこれを賞用せり
○人造麝香は瓶入にして其上木筒に入れ携帯保存等に最も安全なる裝飾となせり弊店發賣は上圖の如し

(僞物注意)

近頃弊店人造麝香の裝飾を摸擬し發賣する者あれども右は品質雲泥の相違あれば御求の節登録商標及(星野)の名義篤と御認を乞ふ

東京日本橋區伊勢町十七番地

日本發賣元 特約藥種問屋

△星野與兵衛

○市内各藥店并に全國有名なる藥店にて賣捌候●取次御望の方は御申込あれ

本校學年試驗結了に付。高等科、普通科、の各級共入學を許す、九月八日迄に申込を乞ふ、
但し規則書を要する向は郵券二錢寄送あれ

東京市麴町區下六番町六番地

明治女學校

女學生募集

本邦ノ事情ニ通曉セル神學博士モール氏今回本校ニ從事シ且ツ内部ノ改良ヲ計リ生徒ノ入學ヲ許ス志望者ハ履歴書相添九月二日迄ニ申込アルヘシ
但シ規則書望ノ者ハ二錢郵劵送附アルヘシ

明治廿六年八月

仙臺市東三番町

宮城女學校

明治廿六年四月廿五日内務省許可
明治廿六年八月四日印刷
明治廿六年八月五日發行

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 全牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
印刷所 全牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍工塲 (電話十九番)